

一九九四年七月～一九九五年六月年度
一九九五年七月～一九九六年六月年度

公開文化塾 講演集



京都東ロータリークラブ

はじめに

一九九四年七月二十九日、第一回の公開文化塾が始まりました。そして二年間にわたり講座が十五回開催されました。この講師はいずれも私ども京都東ロータリークラブの会員が担当いたしました。

講師の先生方は、世界最高レベルにある方ですが、受講者に対し大変わかりやすくしかも内容のあるお話をしてくださりました。

受講者のみなさんからのご希望もあり、講座の抄録をこの、一冊に纏めました。

私ども京都東ロータリークラブが地域社会への奉仕を目的として企画したものでありますが、その内容を通じて、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の機会が得られたことに感謝いたしております。

会期中にいろいろなことがありましたが、特に印象深いものは、阪神・淡路大震災の直後の一月二十日が開催日に当たっており、そのテーマも「ボンペイ発掘」であったことです。聴講者は半減いたしました。非常に厳粛な雰囲気であったことを思い出します。

このようにしてこの一冊に纏められた内容は、きつとみなさま方にお役に立つものであると確信いたしております。

最後になりましたがそれぞれの講座をご担当いただき、その上出版に際しご協力をいただきました先生方から御礼を申し上げます。

一九九四年～一九九五年度会長

村田 侑三

目次

はじめに	
米を考える	満田 久輝 3
国際情勢の変化と経済変動	吉田 和男 7
海水の不思議	藤永太郎 11
中国へのあこがれ	日比野丈夫 17
京のみやび 漆を語る	服部 峻昇 21
ポンペイ発掘	浅香 正 25
森林と水	武居 有恒 37
温泉とは	桂 京造 41
古代ローマの政治改革	柴田 光蔵 47
日本文化の源流 シルクロード	本田 実信 55
大災害と京都の都市づくり	三輪 泰司 59
賀茂祭と雅の世界	鳥居清三郎 65
日本人の宗教心	梶田 真章 69
世界のコンサートホールを目指して	岩淵龍太郎 73
中年からの健康	吉田 修 77

編集後記

米を考える

満田久輝（みつだひさてる）



生年月日 大正三年五月二七日

出身地 京都市

学歴 京都帝国大学農学部農林化学科卒業（昭和十二年）

職歴 京都帝国大学助教授（化学研究所）（昭和十九年）

京都大学教授（昭和二十七年）

日本学術会議会員（第七期）（昭和四十一年）

京都大学評議員（昭和四十三年）

FAO/WHO/UNICEF（昭和四十五年）

合同蛋白質諮問委員（アジア首席代表）（昭和四十五年）

学術審議会専門委員（昭和四十七年）

京都大学名誉教授（昭和五十三年）

甲子園大学学長（昭和五十三年）

サンマルコス大学名誉教授（昭和五十六年）

日本学士院会員（昭和五十八年）

現職 日本学士院会員

京都大学名誉教授

（財）環境科学総合研究所名誉所長（環境庁所管）

資格・農学博士（昭和二十四年）

文化功労者（平成元年）

国際食品科学工学会賞（昭和四十六年）

（バブコック・ハート賞）

国際食品科学工学会賞（昭和四十九年）

（インターナショナル賞）

紫綬褒章（昭和五十五年）

日本学士院賞（昭和五十五年）

アメリカ化学会 農芸化学・食品化学賞（昭和五十六年）

勲二等旭日重光章（昭和六十年）

アインシュタイン特別名誉科学賞（昭和六十一年）

文化勲章（平成六年）

昭和天皇御進講（昭和四十七年）

食品工学・栄養化学

活躍分野

「一粒の米も輸入しない」との国会決議、保守から革新まで各政党こそぞって、コメの市場開放反対の選挙公約の下で当選された国会議員諸賢よ!! 国民、とくに生産者、消費者の叫びに耳を傾けず、外圧に脆くも押し切られ、環境保全、安全保障の点からも、子子孫孫に大きな負債を残した責任は誠に大きい。お隣りの韓国はウルグアイ・ラウンドで輸入条件が日本より優っているのに、為政者は国民に公約違反を詫びて総辞職して、けじめをつけている。日本の農水省、外務省は冷害、不作による緊急輸入をコメの自由化に結びつけ、事実上の部分開放であるミニマムアクセス（最低輸入枠）の受け入れに追い込まれた。緊急輸入を今年限りの例外処置として、国会決議を厳守すべきであるのに、責任もとらず、長期的な農政の指針も立案せず、朝令暮改の食糧政策で、ただ右往左往している。

環境汚染が地球規模で盛んに論議されている時、わが領土から水田が激減したら、取り返しのない状態になり、日本人の心は、すさみ果てるに違いない。水田に代わって工場が林立し、団地が増築されたら、人間、動物の呼気の浄化はいつたいいようになるのか、時に慄然たる思いにかられる。水田は今さら言うまでもなく、雨水を一定期間保水してくれる。この水をダムで蓄えようとしたら、大変な工事が必要である。豪雨の時も、各地に水田があるからこそ、都市は直撃されずに済む。これらの効能を金銭の多寡で表わすとすれば、莫大な金額になるはずである。

一方、稲の緑は半年近く日本人に心のやすらぎを与えてくれている。例えば、車窓から眺めるのどかな農村風景、この精神安定効果は無量大と言つてよい。

わが国の穀類自給率は三〇%以下、世界最低で、一億二千万人以上の国民は、正に薄氷、バブルの上にひしめき合っている。安全保障の点からも重大課題である。先年のペルシヤ湾の大空襲、イラク・クウェートの激戦、気化爆弾など新兵器の出現の報道を静視した時、多くの人たちは、水・食糧の重要性を改めて再認識されたことと思う。石油はなくても、人間は生きていける。一滴の飲料水、一粒のコメ、ムギの大切さ、食糧備蓄の緊要性を痛感されたことと思う。

農業の原則は適地栽培である。冷害は周期的に襲ってくるし、天災は忘れた頃にやってくる。稲作に適した地方の減反は即時緩和し、祖国の水田を大切に確保すべきである。

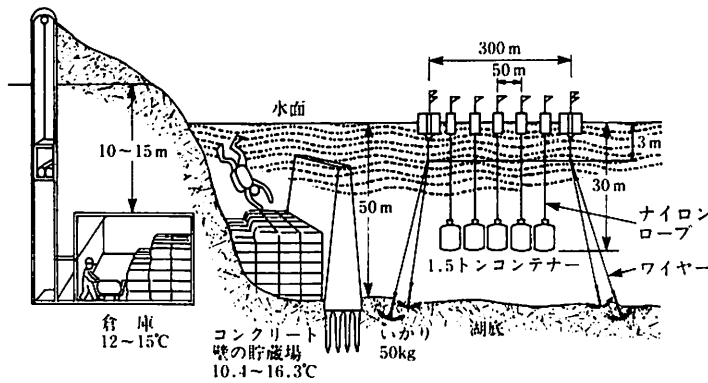


図1 穀類の水中および地下貯蔵

昨年（平成五（一九九三年）は百万トンの在庫はあった筈。昭和四十四年の大豊作の時に、先ず備蓄を真剣に実施しよう進言し、京都大学のグループは水中貯蔵、地下貯蔵の大規模実験に成功し、国際的に高い評価を受けた（図1参照）。コメの品質劣化は空気中の酸素による酸化が主原因で、温度は副であることを学理的に実証した。炭酸ガス密

着包装法を開発し、従来の俵、紙袋、麻袋など通気性包装材による開放型貯蔵法を密閉貯蔵法に改善した（表1、表2、写真1、図2参照）。
学理的に意味のない低温倉庫貯蔵をやめ、クロールピクリン・メチルプロマイドによるコクゾウ虫の殺虫法は毒性ある

表1 穀実のCO₂ガス吸着量 (μl/g)

試料	20°, 3時間の吸着量
粳	86
玄米	90
精白米	70
大豆	440
小豆	64
ピーナッツ	560
小麦	75
ゴマ	230
トウモロコシ	170
米粉	60
小麦粉	60
大豆粉	216
紅茶	115
コーヒー豆	123

表2 各種タンパク質のCO₂ガス吸着量 (μl/g)

タンパク質	CO ₂ ガス吸着量
カゼイン	662
ゼラチン	532
卵アルブミン	267
グルテニン	231
ヘモグロビン	182
ツェイン	150
大豆粉	220
全粉乳	200
クロレラ粉末	163
グルテン	111
米糖	109
生糸	690
絹フィブロイン	110
兔毛（中国産）	106

いはオゾンホールの問題で近く世界的に禁止になるので、食糧庁は後手後手にならないよう、もっと真剣に取り組み、経済的で安全な炭酸ガス封入ドラム缶貯蔵法を実施するよう勧告したい。安全保障上、少なくとも二百万トンのコメは備蓄すべきである。昨年（平成五（一九九三年）、「米、再考」を刊行したが、その冒頭に次の提言を記している。

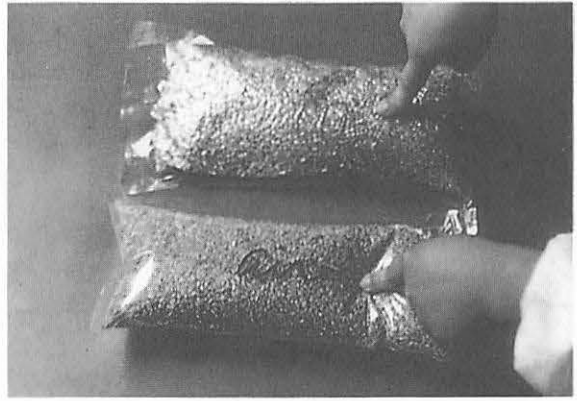


写真1 炭酸ガス封入冬眠密着包装法

万一、コメの市場開放を迫られた時は、巨額の外貨の黒字を減らすためにも、外米を購入し、日本の船で、日本から二百海里の沖合（領海は十二海里）まで運び、不必要な時は日本の国土に荷上げせず、国会決議を守ることだ。コメの品質劣化や鼠害を防止するため、炭酸ガス封入密着包装法を行い、積層フィルム袋、またはドラム缶に外米をつめる。そしてタンカーに積み込み、産油国に向けて出港する。途中、飢餓に苦しんでいる開発途上国の人々に恵与し、人

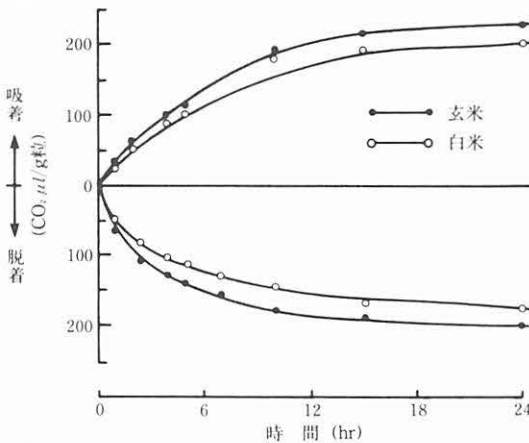


図2 米粒による炭酸ガスの吸脱着の時間的变化

類福祉に貢献することだ。国際協力基金など莫大な国費を海外に援助しているが、策さるに水の感なきにしもあらずで、本当に飢えに跪もがいている子供たちの手に届いているかどうか疑わしい。それよりも現物を支給して難民を救い、国際親善に役立てたい。目的地の産油国に到着後は、余ったドラム缶に石油を積み込み、日本に持ち帰ることだ。コメの国、ニッポンであるにもかかわらず、コメについての正しい知識に欠けている人が意外と多い。平成コメ騒動を機に食糧の備蓄を真面目に考え、即刻実施してほしい。

第二回 一九九四年九月二日

国際情勢の変化と経済変動

吉田和男（よしだかずお）



生年月日 昭和二十三年一月一日

出身地 大阪府

学歴 京都大学経済学部卒業

職歴 名古屋国税局国税調査官
大臣官房付

田辺税務署長

ハーバード大学客員研究員

京都大学経済学部教授

現職 経済審議会臨時委員

税制調査会専門委員

大蔵省財政金融研究所特別研究官

国際日本文化センター共同研究員

二一世紀日本フォーラム代表幹事

資格 工学博士

経済学博士

主な著書 「日本経済の活力と企業行動」

（東洋経済新報社）

「なぜ消費税か」（大蔵省印刷局）

「日本型経営システムの功罪」

（東洋経済新報社）

「官僚集権からの脱出」（読売新聞社）

「ものの見方 欧米と日本」（同文書院）

「日本型銀行経営の罪」（東洋経済新報社）

活躍分野 財政、公共経済学

一九八九年の冷戦の終了から共産主義国家の崩壊までの過程は世界の人々に平和の到来を予想させ、希望をもたせた。第二次世界大戦後の国際的な緊張、すなわちヨーロッパでの危機、朝鮮戦争、キューバ危機、ベトナム戦争などほとんどの平和を阻害してきた要因は米ソの対立であった。従って、米ソ対立の終結は平和を意味していた。しかし、現実にはイラクによるクエートへの侵攻は世界を驚かせ、国連が武力で追い出すこととなった。

ユーゴの崩壊に始まった紛争はボスニアヘルツゴビナの内戦として收拾の見込みが立っていない。旧ソ連内の共和国であるアルメニア、アルバニア、グルジアなどの内戦、旧ソ連圏の途上国であるソマリア、モザンビークなどでの内戦、南北イエーメンの争い、スリランカ・インド・パキスタンの紛争など挙げれば切りがない。

米ソの対立の終了が平和ではなく戦乱を多発させることとなったのは、これまで米ソ対立が紛争を抑止していたこととにあった。人々は目の前の対立は理解できても、それが抑止しているものを認識できない。戦後の国際秩序は国連によって運営されることとなっていたが、実際上はソ連の

拒否権で機能せず、米ソ対立が大枠での平和を形成していた。これが崩壊すれば、それこそ何百年来の対立が火を吹くことになる。ボスニアヘルツゴビナの対立も東西ローマ帝国の分裂に起因している。

世界経済の混乱も同様である。戦後の世界経済はアメリカの圧倒的な力によって運営されてきた。アメリカのリーダーシップで生まれたGATTが作りだした自由貿易体制は世界の交易を促進し、世界的な経済成長を生みだした。自由貿易は外国の資源や技術を利用することができ、自国は得意なところだけを行うことで経済効率を高めることができる。

しかし、もし自国だけが保護貿易とすれば大きな利益を得る。するとすべての国が保護貿易となつて貿易の利益がなくなり、戦前のようにブロック経済となつて戦争の原因にもなる。これをアメリカは力で世界の国に自由貿易を選ばせたのである。さらに、ドルが世界通貨となることによつて、貿易や投資が円滑に行わせることになる。また、アメリカは多くの独立した途上国に対して大きな援助を与えてきた。そして、このGATT・IMF体制は日本にも

大きな恩恵を与えた。戦前は日本の命運をかけて石油などの戦略物資や市場の確保を行ったのであるが、戦後はお金さえ出せば安い石油を手に入れることができ、アメリカの市場は使いたい放題となった。

しかし、このような条件はアメリカの力の相対的な変化によって大きく変わることになる。ヨーロッパはECになり、今度はEUとなって、地域主義的な立場を明らかにしてきた。そして、アメリカ自身もNAFTAを結成し、ブロック経済化の方向を窺わしている。ドルは昭和四六年にニクソンショックとなって、世界の機軸通貨からただの通貨となる。さらに、変動為替相場制度となって通貨体制は混乱し、プラザ合意以降、ドルは下落を続け1ドル＝100円を切るまでに到っている。国際経済が変動を起こしてきたのも、この米ソの対立によって消耗したアメリカの力の衰退によっていた。逆に、米ソの経済力の消耗は冷戦を維持する力を消滅させた。

この様に、冷戦の終結が政治経済の両面にわたって変動を引き起こしたのである。そして、ここで新しい秩序の形成が問題になっている。これを一国で担える国はなくなり、

各国の協調によってでしか実行できない。日本の国際社会における責務が大きくなってきたのは、このような国際政治経済の潮流の変化に起因することになる。国連やサミット、G5などの中での地位の向上は不可避のものである。日本人の積極的な対応が期待されている。

第三回 一九九四年一〇月二八日

海水の不思議

藤永太一郎（ふじなが たいちろう）



生年月日 大正八年一月二二日

出身地 山口県

学歴 京都帝国大学理学部卒業

職歴 京都大学理学部教授

京都大学瀬戸臨海実験所長

奈良教育大学学長

京都府環境審議会会長

日本化学会名誉会員

ソ連アカデミー名誉会員

現職 財団法人 海洋化学研究所長

資格・理学博士

褒賞等 近畿工業化学会賞「示差ポロログラフイ」

活躍分野

日本分析化学会賞

TALANTA賞（コペンハーゲン）

日本学士院賞

Kharakovメダル（モスコ）

環境庁長官賞（水質保全功労者）

勲二等旭日重光賞

王立化学協会 Robert Boyleメダル

（エジンバラ）

主な著書

「基礎分析化学」（朝倉書店）

「ポロログラフ分析法」（丸善）

「琵琶湖の環境化学」（学術振興会）

分析化学、海洋化学

人類は海から生まれた？

四〇億年の海の歴史

海水と海底の無限の資源は？

わだつみの どよもす声す 学びやは

京の都の 陸おかにあれども

海洋化学を世界に先駆けて確立された恩師石橋雅義先生が、その創始に際して詠まれた歌である。以来六十余年を経て、海水の化学は自然科学の中の大きな領域として世界的な展開をみせ、いわゆる京都学派の誇るべき柱の一つとなっている。先生は「海水はすべての化学元素を含む」との信念の下に研究をスタートされ、自身で五十七元素を分析してその実証をされたが、関連して幾つかの法則を見いだし、それによって未測定元素の溶存量を予測するとも海洋年齢の算定を行うなど斯学の発展に大きな貢献をされた。

今回標記の題で話をするに当たって、改めてよく調べ考え直してみたが、海という存在は依然として大部分がよく

は分からない不思議に満ちている。先端科学技術といわれる領域のほうがむしろ分かりやすい。造物主と人間の知恵の差というべきであろう。そこで自問するつもりで見聞した知識を左記してみる。

① 海は地球が生まれると間もなくできた

(他の星はどうか?)

② 海は昔から大きくて塩辛かった。そして今では世界中で同じ味がする。

③ 海水のほうが淡水より早く冷える。

④ 海では多くの場合、成層していて上下混合し難い。しかし気温のほうが水温より低いとき、海底に地熱がたまったとき、湧昇流が起こる。(エルニーニョ現象)

⑤ 海流は主に地球の自転によって起こる。

⑥ 海水を蒸発させると、まずかた罐石が生じ、次いで食塩が析出し、あとに苦汁が残る。

(サンゴ礁はどうしてできるか?)

⑦ 海水から食塩、マグネシウム塩、臭素、カリウム塩、硼酸塩などを採ることができる。

⑧ 海水から金やウランを採ることは難しい。

表1 海水中の溶存元素量

原子番号	元素名	溶存量(mg/L)
3	リチウム	0.2
4	ベリリウム	0.0003
5	ホウ素	4.06
6	炭素	28.
7	チッ素	0.5
9	フッ素	1.4
11	ナトリウム	10,500.
12	マグネシウム	1,280.
13	アルミニウム	0.01
14	ケイ素	2.0
15	燐	0.05
16	硫黄	900.
17	塩素	18,900.
19	カリウム	380.
20	カルシウム	410.
21	スカンジウム	0.00004
22	チタン	0.0004
23	バナジウム	0.003
24	クロム	0.00006
25	マンガン	0.003
26	鉄	0.005
27	コバルト	0.0005
28	ニッケル	0.0007
29	銅	0.003
30	亜鉛	0.005
31	ガリウム	0.0002
32	ゲルマニウム	0.00002
33	ヒ素	0.005
34	セレン	0.004
35	臭素	65.
37	ルビジウム	0.3
38	ストロンチウム	130.
42	モリブデン	0.015
47	銀	0.0003
48	カドミウム	0.00001
53	ヨウ素	0.05
55	セシウム	0.0004
56	バリウム	0.01
57	ランタン	0.0003
58	セリウム	0.0004
74	タングステン	0.0001
79	金	0.000004
80	水銀	0.00003
82	鉛	0.002
88	ラジウム	1×10^{-10}
90	トリウム	0.0001
92	ウラン	0.0015

この表には酸素、水素(H₂Oとして約960g)とヘリウムなどの安定元素と重元素の幾つかが欠けている。

1 mg/L 以上存在するいわゆる多量成分の存在比は殆んど一定しているが⁷N、¹⁴Si、¹⁵P、の3元素は栄養塩であるから一定しない。

(この表の値の多くは石橋研究室による)

- ⑨ 深海底にはマンガン瘤と呼ばれる富鉄が落ちていて、ところがある。
- ⑩ 海水中に少ない元素ほど人間に有害である。
- ⑪ 海の植物の栄養素はチッ素、リンとケイ素である。(陸上植物ではチッ素、リンとカリウム)
- ⑫ 海水は二酸化炭素を吸収しないが、プランクトンや海藻が吸収する。したがって海洋砂漠を緑化すれば地球の温暖化と食糧問題が同時に解決するかもしれない。
- ⑬ 海の中で生命が生じた。(今も生じているか?)
- このほかにも限りなく不思議なことがあるだろうが、とりあえず前記の十三の命題について話してみることにする。それぞれの命題は要述したのでは正確でないから、補足が必要であるし、さらにどの命題も本当かどうかよく分からない。まだ研究が始まったばかりだからである。一緒に考えるほかはない。

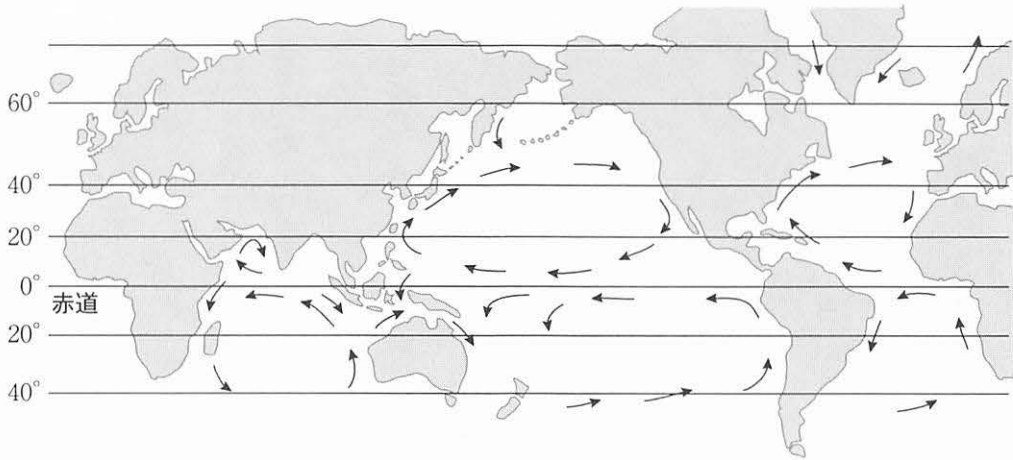


図1 主な海流

地球の自転に伴って、赤道近傍の気は常に東から西に向って流れ（貿易風）、中緯度のあたりでその反流（偏西風）が吹いている。表層海流もそれに伴って起こるから、北半球では時計廻り、南半球では反時計廻りになる。双方が赤道上東端で合体して西流する。

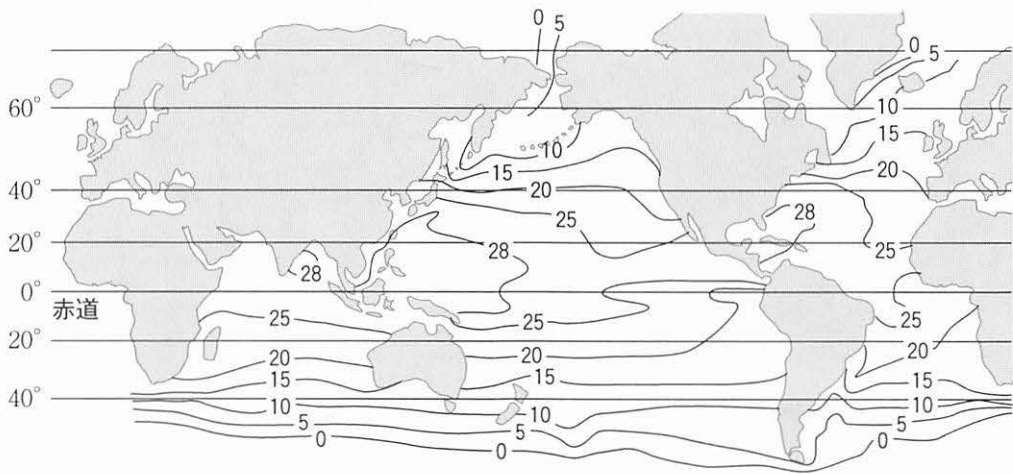


図2 表面海水温度、8月(単位は℃)

太平洋赤道流はエクワドル海岸沖の冷水塊（ラニーニャと呼ばれている）から始まる。これが時に消えるときがあり、エルニーニョ現象と呼ばれる。異常気象はこれが引き金でおこると言われている。

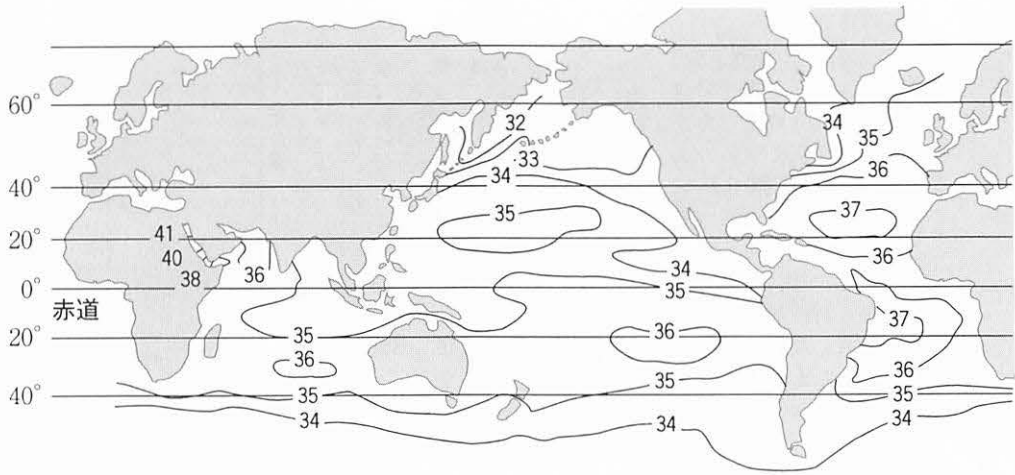


図3 表面海水の塩分濃度、北半球の夏(単位は g/kg)

海洋の塩分濃度は緯度が高くなると低くなる。開放海域のうちで最も高いのは紅海であるが、大西洋は全体的に太平洋より高い。いずれも蒸発速度がきめてと考えられている。

なお、塩分濃度を初め、すべての化学成分は観測船による採水分析によらなければならないから莫大な労力と時間が必要である。この塩分濃度分布図も何隻もの船が何日にもわたって測った値の継ぎ張りによってできている。

他方図2の温度といったような物理量は、今日では人工衛星での赤外線測定によって即時同時的に得られるようになってきている。(リモート・センシング法)

図4 地球上の炭素の化学変化

草木、石炭、石油などが燃え、また生物が呼吸し分解(腐敗)すると二酸化炭素(炭酸ガス)となり大気にまじる。炭酸ガスは植物による光合成、又は硫化水素などによる還元によって有機高分子に再合成されるか、或いは火成岩や炭酸塩鉱物を風化溶解して水圏に移る。

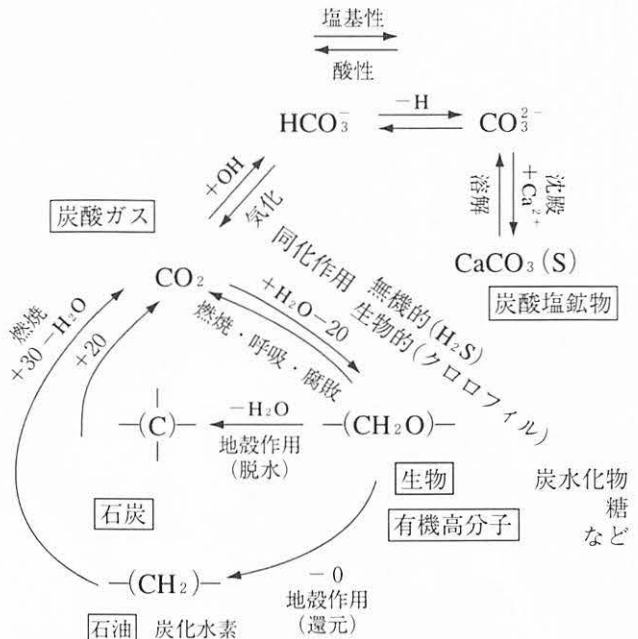
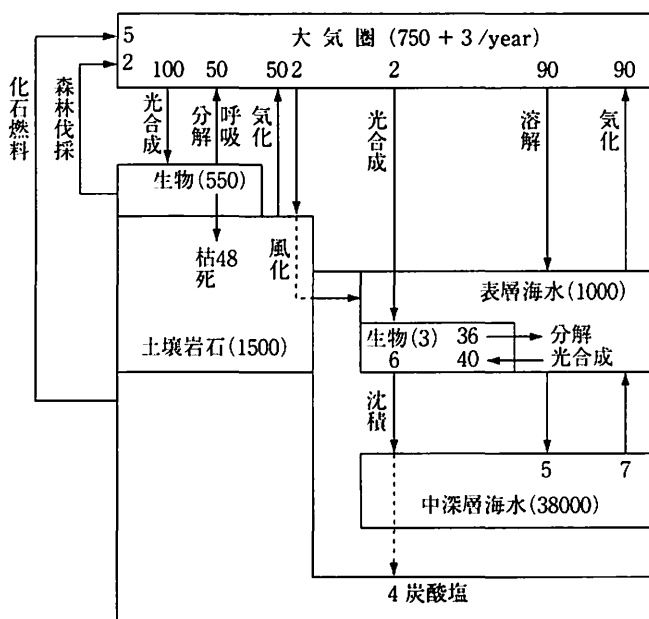


図5 炭素の移動
 (単位はG T = 10億トン)
 炭酸ガスは地球誕生時は大気の主成分であったが、激減して現在では0.03%、750GT (炭素換算) になっている。ところがこのところ年間3GTずつ増加しており、それが人類による石油消費の増加にもとづくと警告されている。もともと大気と生物圏、水圏、岩石圏の間では年間約200GTもの炭酸ガスが往来しているのであり、増加の要因としては、太陽エネルギーとその受光量の増加、火山活動の増加、光合成(植物)の減少など他にも色々考えられる。



参考文献

- 1 H. U. Sverdrup 他：海洋、その物理化学と生物、(一九六一) Prentice Hall.
- 2 藤永太郎他：海水のトレース・キャラクターゼーション、現代化学、(一九七八) 東京化学同人。
- 3 B. Bolin 他：温室効果、気象変化と生態系、SCOPE29' (一九八六) John Wiley.

第四回 一九九四年二月二十八日

中国へのあこがれ



日比野丈夫（ひびの たけお）

生年月日 大正三年三月四日

出身地 京都市

学歴 京都帝国大学文学部史学科卒業

職歴 外務省文化事業部特別研究員

京都大学人文科学研究所研究員

京都大学教授

日本学術会議第九―一二期会員

追手門学院大学教授

大手前女子大学学長

現職 武田科学科興財団 杏雨書屋館長

京都大学名誉教授

資格・ 文学博士

褒賞等 日本学士院賞

主な著書 「五台山」（座右宝刊行会）

「蒙疆考古記」（星野書房）

「山西古蹟志」（中村印刷出版部）

「華僑」（NHKブックス）

「目で見る中国の歴史」

（講談社 中国の歴史10）

「中国歴史地理研究」（同朋社）

「万里の長城」（日本版監修）（河出書房新社）

「東洋学の半世紀」（大阪府 にはは塾叢書）

欧米へ旅した人の多くはきつと中国の旅を楽しみたいと思ひ、先ず中国へ旅した人も次には欧米の風物に触れて、東西の相違を体験したいと思うであろう。そうして大多数の日本人は中国がわかりやすく、肩のこらないことに安らぎを感じるに違いない。これは千何百年来、祖先たちが中国の古典によつて教育され、漢字をもとにした共通の思考や理解が可能だったからである。いふなれば東アジアの中でも、とくに漢字文化圏に属するものの親近感といつてもよいかも知れない。しかし、中国も現実に変化しつつあるのであつて、変らざる中国にのみ郷愁を寄せることなく、中国がなぜ変るのか、どこまで変るのかという面を見なければならぬのである。

いふまでもなく、江戸時代の末まで日本は中国を文化的祖国として、長年に亘つて尊敬してきた。遣唐使の時代はもとよりのこと、王朝の興亡にかかわりなく中国文化を輸入することにとめてきたのである。それが一九世紀になつて清朝は急激に衰弱に向かい、アヘン戦争でイギリスに大敗をした結果、一八四二年には屈辱的な南京条約を結ばねばならなくなつた。やがてイギリスを先頭に列強が中国

侵略を始めたとき、一八六二年（文久二年）江戸幕府から上海視察に派遣された日本人たちは、実に憐れむべき中国の惨状を目撃して驚いたのである。このときから日本人の中国観は一変して、明治になると中国軽視はますます甚しく、ついには列強とともに中国への武力侵略に狂奔した。同時に中国文化に対する見方が變つてきたのも当然であつた。二十世紀に入つて清朝が亡び、栄光に満ちたかつての中華帝国がこの世から姿を消すと、伝統ある中国文化そのものも絶滅したと考える人たちも出てきたのである。清朝の滅亡は余りにも大きな衝撃であつて、一部の日本人には中国の在来文化はもちろんのこと、もつぱら中国に依存してきた日本古来の文化も、もはや価値を失つたとさえ思われたからであらう。

しかし、中国の文化は決して王朝の興亡によつて左右されるものではなく、年代を超越して永続性、一貫性があつた。唐王朝のような世界帝国では今日にも通ずる花やかな文化が生まれ、南宋から元朝にかけて漢民族が被征服者として圧迫されていた時代には、いかにも陰気な重苦しい文化が生まれた。それにもかかわらず、漢民族の文化はそれ

それぞれの時代の特色を發揮しつつ、少しも断絶することなく發展し続けてきたのである。しかも、年とともに広い地域にわたり、周辺の少数民族を同化することによって、共通の文化を普及させていった。つまり中国文化の普遍性、均一性ということは、永続性、一貫性ととも歴史と伝統とによって成長したもので、ここに強靱性があるといつてよいと思う。これを支えてきたのが、何千年の歴史をもつ農業であった。儒教を基盤とする政治体制がそこから生まれ、非民主的、前近代的ともいべき二つの要素が、今日なお中国を特徴付けているのである。その一つが政治における独裁制であり、いま一つが広大な領土の占有であろう。独裁者の存在が今後も許されるかどうかは別として、中国が何故これだけの領土をもつ必然性があるのか。それが果して人類の平和と幸福にとって意義があるのか、ということの問題にする人は意外に少ないようである。

今日、中国では鄧小平氏による経済第一主義の政策が大成功を収め、次期の世界を担う超大国こそ中国であるという説が盛んである。このようなアメリカの若手の評論家に追随する日本人も多く、中国の強盛を過信するあまり、日

本の将来を危惧するものも現われてきた。しかし、この現状がどこまで続くのか、あるいは長い時の経過からみれば、一瞬の出来事に過ぎないのか。必ず中国の歴史と伝統とが、根強い抵抗を示して巻き返しを計るときがくるであろう。その間には分裂の危機に陥ることがあっても、中国は形を変えてよみがえってくるに違いない。西洋の経済、文化が行き詰りをきたし、逆戻りの必要さえ叫ばれているとき、いわゆる中国の近代化にいかに対応するかは、われわれ日本人にとって最大の関心事なのである。

第五回 一九九四年二月一日

京のみやび 漆を語る

服部峻昇（はっとりしゅんしょう）



生年月日 昭和一八年一月六日

出身地 京都府

学歴 日吉ヶ丘美術工芸学校

文化庁在外研修員として一年間留学

アトリエ17（於フランス）

文化勲章受章 佐治賢使先生に師事

職歴 日展審査員

フォルメ創立結成会員

京都府工芸美術展審査員

文化庁在外研修員

京展審査員

日工会展審査員

現職 漆芸家・日展会員・日工会理事

京都工芸美術作家協会会員

創工会会員

資格・ 日展入選・日展特選二回

褒賞等 京都府工芸美術展優賞

京都市芸術新人賞

明日を開く日本の新工芸展 優秀賞

京展賞「耀貝飾箱 暁の海」

第四回倫雅賞（河北倫明先生）

日工会展文部大臣賞

主な NHKテレビ「漆を世界に・ある漆芸家の挑戦」放映

著書外 京都朝日画廊にて在外研修帰朝個展

京都高島屋美術画廊にて個展

一九六〇年代の工芸 昂揚する新しい造形 招待出品

近代の潮流 京都の日本画と工芸 招待出品

第一回創工会展 以後毎年開催出品

服部峻昇作品集「漆芸の燦」（ふたば書房）

思文閣にて倫雅賞受賞記念展開催

ローマ法王ヨハネ・パウロ二世に謁見し典書台献上

活躍分野 漆芸

漆と日本人の関わりは、今からおよそ六〇〇年前の縄文時代前期までさかのぼります。当時、漆は土器、土偶などの保護、補強などに使われていましたが、その他にも顔料と混ぜあわせた鮮やかな赤い漆で、櫛や耳飾りなどの装身具に紋様を描くのにも使われていました。

このように古来から日本人に親しまれてきた漆が大きく花開いたのが奈良時代です。この頃、中国から伝わった漆塗や螺鈿などの加飾技法等が取り入れられ、日本の漆工芸の技術が大きく発展しました。奈良の法隆寺に残る玉虫厨子は漢の時代の漆工芸の技術に通じるものといわれています。やがて平安時代になると貴族を中心として、様々な文化が花開きましたが、漆も例外ではなく、絢爛豪華なものへと変化していきました。その頃の漆器は寺院や貴族社会で使用され、特権階級の支持と支配に委ねられていました。しかし、江戸時代になると生活文化の発展と共に、漆器も庶民の間に広がっていきました。光悦や光琳の漆芸の美意識はよく知られています。その後様々な歴史的経過をたどり、今日では漆芸も家庭用器物として日常化し、ごく自然のうちに目にし、手にとることができるようになりまし

た。茶道に使われる棗、盆、棚などはもとより、硯箱や家具調度、建物内部の装飾にも漆が用いられるようになっていきます。

このように「漆工芸」は時代の空気を敏感に吸収し、様式、文様までがその時代を映しだす、各時代に独得の作品が生みだされてきました。私が生まれ育ちましたこの京都は折しも建都一二〇〇年の記念すべき年を迎えております。その京都では、室町や桃山時代の伝統を今なお引き継ぐ伝統と美意識に、新たな現代の時代感覚を加えた現代の漆芸美が作りだされています。こうした文化・芸術産業の発展にとつての素晴らしい環境を持つ、京都のよさを、私達ののちの人々に継承しなければならぬと強く思います。

漆は漆の木から取れる樹液で、漆芸の素材として、塗り又は蒔絵のための重要な役割を果します。日本産のよい漆を吟味し、使用するわけですが、市場では約八〇パーセントが中国産のものに占められています。この漆は絵の具や彫刻用の素材と違って非常に制約の多い素材です。自由に色を出すことも、感情のおもむくままに絵筆を動かし表現することも出来ません。陶芸のように炎の世界で思いもか

けない美と出合うこともないのです。

漆というものは、何回も何十回も塗り研ぎを積み重ねていく仕事です。しかし、ただ積み重ねていけばよいかというと、決してそうではありません。自分の感性や感動がそこに盛り込まれていなければなりません。そしてそのためには、日々の技術の修練が決して、おろそかにされてはならないのです。毎日、筆を持ち、自分の意のままに表現できるように訓練するのです。これは人生と同じであると思います。苦しくとも、常に挑戦し、努力を積み重ねていく中で、本当の美しさが生まれてくるのです。

ところで、漆工芸はともすれば、一見使い易く、美しいことに価値を置くむきがありますが、より大切なことは、まずその作品が作者の心、あるいは個性を表し物語るものであるということなのです。無論、技術は大切です。しかしそれ以上に、何より大切なのが、作者自身の心の美学、創造の魂なのです。技術は十年もあれば習得することが出来るかもしれませんが、それだけでは本物とは言えません。磨かれた感性がないと現代の漆芸作品の言葉を語ることが出来ないからです。そのためには、自然をよく見、感動し、

本能的にそれを作品として形象化することが大切です。

さらに今、日本人の生活空間が大きく変化してきています。発想の転換が求められているのです。私は近年、蒔絵と螺鈿という伝統的な技法を用いながら、現代の漆工芸作品を追求しています。この道に入って三〇余年になりますが、漆工芸の表現素材の可能性は無限であると感じます。日本の風土にマッチし独得の文化を育んできた漆工芸、これからもその新たな可能性を求めて、現代の漆芸作品と呼べるよい作品を一点でも創りたいと考えております。

第六回 一九九五年一月二〇日

ポンペイ発掘



浅香 正（あさか ただし）

生年月日 大正十三年十一月五日

出身地 富山県

学歴 京都大学文学部史学科卒業

アメリカ合衆国ハーヴァード大学に

研究員として留学

在ローマ アメリカ古典学研究所留学

在ローマ スウェーデン古典学研究所留学

職歴 同志社高等学校教諭（一九五〇—一九五五年）

同志社大学文学部専任講師、助教授、教授

（一九五五—現在）

現職 同志社大学文学部部長

古代学協会・古代学研究所

ポンペイ学術調査隊隊員

主な著書 「クレオパトラとその時代」

「ローマ文明の跡を訪ねて」

エイナル・イエルシュタッド著

「ローマ都市の起源」〔翻訳〕

活躍分野 古代ローマ史及びポンペイ学術調査

古代ローマ都市のポンペイは紀元後七九年ウエスウィウス山の噴火によって埋没し、ながい間人々の記憶から忘れ去られていました。ようやく十七世紀頃になってかつてのポンペイの町が人々の話題になりましたが、ポンペイ遺跡が本格的に発掘されるにいたったのはナポリを支配していたブルボン王家時代の一七四八年のときからであります。

しかし、ブルボン王家時代の発掘は組織的な調査というよりは、「宝探し」の性格の強いものであります。手当たり次第にめぼしい大理石や青銅製の彫刻、フレスコ絵画、金銀製の宝石細工などの美術品を王宮にもち帰りました。

一八六一年三月イタリア王国が成立し、王位についたヴィットーリオ・エマヌエーレ二世はかつてのローマ帝国の栄光を求めて、有能な考古学者ジュゼッペ・フィオレツリにポンペイの組織的な発掘を行わせました。フィオレツリ以来今日まで、ポンペイの発掘は時代の変化に対応しつつ、継続され、ほぼ全遺跡の五分の四が発掘されました。

ポンペイはナポリの東南約二四軒のところに位置し、ナポリからヴェズヴィオ周回鉄道で約四〇分、ヴィラ・デイ・ミステリ駅で下車し、ポンペイ遺跡の入口に到達する

ことができます。ポンペイはウエスウィウス山の東南側の溶岩台地の舌状部にあり、火口の中心からポンペイまでの距離は約一〇軒足らずであります。ポンペイの南側はサルノ川に向って急斜面となり、比較的防禦に適し、かつサルノ川の河口に近く、現在よりもっと海岸が接近していたので、交通の便にも適し、商業活動に便利な位置にあったと考えられます。

ポンペイは城壁にかこまれ、その周囲が約三・二軒、城壁には八つの城門（ただし「カプア門」と呼ばれている城門は未発掘のため、確認されておらず、古代学研究所が現在その城壁の確認発掘調査を行っております）があり、かつ城壁に十二の塔（ポール、東西一二〇メートル、南北六五〇メートル）の梯形をなしております。

イタリアの諸都市も最初はギリシアと同様、都市国家の政体をとっておりましたが、ローマの勢力がイタリア半島に拡大するにつれ、各都市はその独立を失い、自治都市に変化して行きました。ポンペイは七九年ウエスウィウス山の噴火によって埋没するときは、紀元前八〇年植民市建設

に関係のあった独裁官スッラの名前 Lucius Cornelius Sulla Felix とポンペイの守護神ウエヌス Venus から Colonia Cornelia Veneria Pompeianorum (ポンペイ人の町コルネリウス・ウエヌス植民市) と呼ばれていました。

古代ローマ都市ポンペイは城壁内の都邑部と城壁外の農村部からなりたち、都邑部には(一)公共建造物として宗教建造物と一般公共建造物があり、(二)私的建造物として商工業に関する家屋や一般市民の住宅がありました。また農村部にはいろいろな機能をもつ villa ウィラがありました。ウィラといえば、今日一般に生活の余暇を楽しむ別荘を意味し、ポンペイの郊外にもそのような機能をもつ豪華な別荘がありました。しかしまたポンペイ近郊の農業特産物である葡萄酒やオリーブ油を製造する農業屋敷もありました。

前者は villa di orium (閑暇別荘) と呼ばれ、後者は villa rustica (農業屋敷) と呼ばれています。

また古代のローマ人は郊外に通じる道路の両側に立派な墓碑を建立いたしました。現在もポンペイの城門の外側に、道路に沿って多くの墓碑が立っており、その墓にはその墓に葬られている人々の業績が刻み込まれています。さらに

住宅の壁面に描かれている奇麗なフレスコ絵画は、ポンペイの人々の宗教意識や美意識をわたくしたちに伝えてくれます。まさしくポンペイの遺跡は、ローマ文明の宝庫なのであります(スライド約百枚を用い、ポンペイの遺跡を説明)。

後記

梗概(二八頁、V・5—6)に記したポンペイ絵画の様式年代に対し、現在の研究では次のごとく区分する学説が有力である。第一様式(前一八〇—一八〇年)、第二様式(前八〇—二〇/一五年)、第三様式(前一五—後四〇/五〇年)、第四様式(後四五—七九年)。

- I. ポンペイの位置 ポンペイの都市領
- II. ポンペイの都市 (二九頁)
- III. 城壁内の都市

- 1 城壁、城門、塔
- 2 街路、東西路 (decumanus)、南北路 (cardo)
- 3 地区、街区、家屋
- 4 公共建造物
 - a 広場 (フォルム) (A)
 - b 凱旋門
 - c パシリカ
 - d 市参事会議事堂 (元老院)
 - e 神殿・アポロ神、ユピテル神、ラレース神、幸運の神
アウグストゥス、ウエスパシアヌス帝、イシス神等
 - f 公共浴場 (B)
 - g 円形闘技場
 - h 劇場
 - i 体育訓練場 (パラエストラ)
 - j 肉市場 (マケルム)
 - k エウマキア
- 5 商工業用建造物
 - a 旅館 (カウポーナ)
 - b 商店・食堂 (タベルナ)
 - c 飲食店 (テルモポリウム)
 - d パン屋 (ピストリウム)
 - e 毛織物・縮充工房 (フロニカ)
 - f 調味料 (魚汁) 工房 (ガルム)
- 6 ポンペイ住宅
 - a ヴエッティの家 (C)
 - b ファウヌスの家 (D)

IV. 城壁外の農村

- 1 墓地
 - a 墓地通り (via dei sepolcra)
 - b ボルタ・ノチエラの墓地
- 2 農村屋敷 (villa)
 - a 閑暇別荘 (villa di otium)
 - (1) 秘儀荘 (E)
 - (2) ボッペアの別荘 (F)
 - b 農業屋敷 (villa rustica)
 - (1) ルキウス・カエキリウス・ユークンドゥスの農業屋敷 (G、1・2)
 - (2) ウィラ・レジーナの農業屋敷 (H)
- 3 ポンペイの都市の発展
- 4 1 オスキ人
- 2 ギリシア人
- 3 エトルスキ人
- 4 ギリシア人
- 5 サムニウム人
 - a 建築第1段階 第1期サムニウム時代 (前四〇〇-三〇〇年)
 - 第2期サムニウム時代 (前三〇〇-一八〇年)
 - 第3期サムニウム時代・絵画第1様式時代 (前一八〇-八〇年)
- 6 ローマ人
 - a 建築第3段階 絵画第2様式時代 (前八〇-後一四年)
 - b 建築第4段階 絵画第3様式時代 (後一四-三二年)
 - c 建築第5段階 絵画第4様式時代 (後三二-七九年)

ボンベイ



- ① 竖琴奏者の家 (I, 4, 5)
- ② クリプトポルティコ(地下列柱廊)の家 (I, 6, 2-4)
- ③ ステファヌスのフロニカ (I, 6, 7)
- ④ ケイイの家 (I, 6, 15)
- ⑤ パウウス=プロクルスの家 (I, 7, 1)
- ⑥ 神官アマンドゥスの家 (I, 7, 7)
- ⑦ エフェボの家 (I, 7, 11)
- ⑧ 四様式の家 (I, 8, 17)
- ⑨ 美しいイムブルウィウムの家 (I, 9, 1)
- ⑩ 果樹園の家 (I, 9, 5)
- ⑪ メナンドロスの家 (I, 10, 4)
- ⑫ 恋人たちの家 (I, 10, 11)
- ⑬ ソテリウスのパン焼窯の家 (I, 12, 1)
- ⑭ ウムブリキウスのガラム工房 (I, 12, 8)
- ⑮ サルノ川ラレス神廟堂の家 (I, 14, 7)
- ⑯ エウロウの舟の家 (I, 15, 3)
- ⑰ 逃走者の家 (I, 21, 2-1)
- ⑱ D. オクタウィウス=クアルティオの家 (ロレイウス=ティブルティヌス家) (II, 2, 2)
- ⑲ 貝殻のウェヌスの家 (II, 3, 3)
- ⑳ ユリア=フェリクスの農園 (II, 4, 3)
- ㉑ A. トレビウス=ウァレンスの家 (III, 2, 1)
- ㉒ 道徳家の家 (III, 4, 2)
- ㉓ ビナリウス=ケリアリスの家 (III, 4, 6)
- ㉔ L. カエキリウス=ユクンドゥスの家 (V, 1, 26)
- ㉕ 銀婚式の家 (V, 2, i)
- ㉖ M. ルクレティウス=フロントの家 (V, 4, a)
- ㉗ 剣闘士の家 (V, 5, 3)

- ㉘ 外科医の家 (VI, 1, 10)
- ㉙ サルスティウスの家 (VI, 2, 4)
- ㉚ パンサの家 (VI, 6, 1)
- ㉛ アポロの家 (VI, 7, 23)
- ㉜ 悲劇詩人の家 (VI, 8, 3)
- ㉝ 大噴水の家 (VI, 8, 22), 小噴水の家 (VI, 8, 23)
- ㉞ メレアグロスの家 (VI, 9, 2)
- ㉟ デイオスクリの家 (VI, 9, 6)
- ㊱ 鉛の家 (VI, 10, 7)
- ㊲ ラビュリントゥスの家 (VI, 11, 10)
- ㊳ ファウヌスの家 (VI, 12, 2-5)
- ㊴ ウェッティの家 (VI, 15, 1)
- ㊵ アモリーニ・ドラーティの家 (VI, 16, 7)

- ㊶ アラ・マッシマの家 (VI, 16, 15)
- ㊷ シリクスの家 (VI, 1, 25)
- ㊸ M. ガウィウス=ルプスの家 (VII, 2, 16)
- ㊹ パン焼窯の家 (VII, 2, 22)
- ㊺ 狩猟の家 (VII, 4, 48)
- ㊻ 娼婦の家 (VII, 12, 18)
- ㊼ M. ファビウス=ルプスの家 (VII, 西街区, 16-19)
- ㊽ 猪の家 (VII, 3, 8)
- ㊾ コルネリウス=ルプスの家 (VII, 4, 5)
- ㊿ M. エビディウス=ルプスの家 (IX, 1, 20)
- ㊽ マルクス=ルクレティウスの家 (IX, 3, 5)
- ㊽ ビュグマイオイの家 (IX, 5, 9)
- ㊽ 百年祭の家 (IX, 8, 6)
- ㊽ C. ユリウス=ポリュビウスの家 (IX, 13, 1-3)
- ㊽ M. オベリウス=フィルムの家 (IX, 14, 4)
- ㊽ 秘儀荘

- Ⓐ フォルム
- Ⓑ アポロ神殿
- Ⓒ ユピテル神殿
- Ⓓ ティベリウス帝の凱旋門
- Ⓔ マケルム
- Ⓕ ラレス神殿
- Ⓖ ウェスバシアヌス神殿
- Ⓖ エウマキアの会堂
- Ⓙ 二人官役所
- Ⓚ 市参事会議事堂
- Ⓛ パシリカ
- Ⓛ 三角広場
- Ⓛ ドリス式神殿
- Ⓛ 大劇場
- Ⓛ 小劇場
- Ⓛ イシス神殿
- Ⓛ パラエストラ
- Ⓛ 円形闘技場
- Ⓛ フォルム浴場
- Ⓛ スタビア浴場
- Ⓛ 中央浴場

ボンベイ発掘

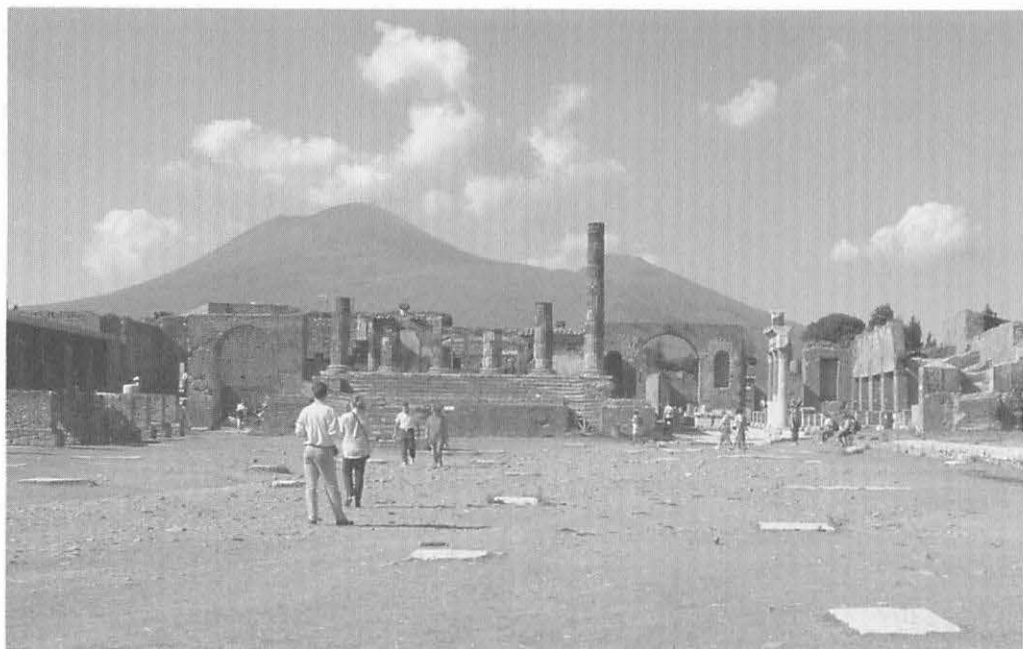


写真1 フォルム（広場）
ポンペイの政治・経済・宗教などの市民生活の中心地で、38×157メートルの広さがある。

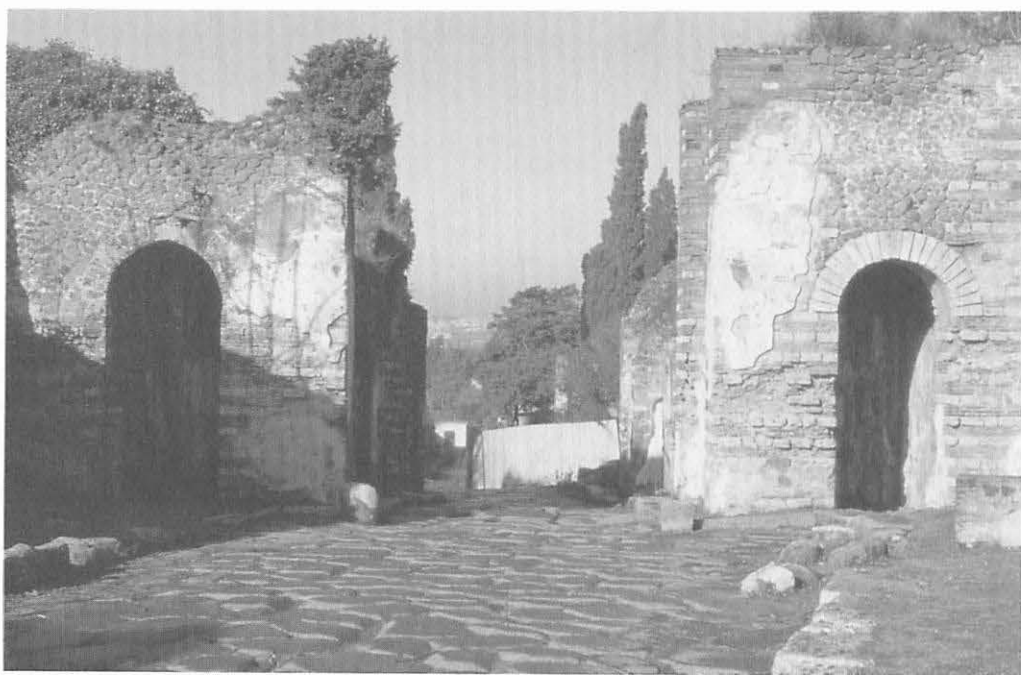


写真2 エルコラーノ門（古名サリニエンシス門）
ポンペイ北西部にあり、墓地への道に通じる。三つのアーチ門からなり、中央の門は車道用、側門は歩道用である。



写真3 ファウヌスの家

一つの街区すべてを占める。ポンペイでは第1様式を代表する最も広大な住宅（ドスム）の一つである。前2世紀頃に建築され、その後いくたびかの改修を受けた。色大理石のはめ込まれたイムプルウィウムに青銅製の“踊るファウヌス”の小像がおかれていたので、ファウヌスの家と呼ばれている。ファウヌスはイタリア古来の牧羊神（オリジナルはナポリ国立考古博物館に所蔵）。同盟市戦争のとき、ポンペイを占領した独裁官スッラの甥で、前80年ポンペイをローマ植民都市としたプブリウス＝スッラの住宅といわれている。



写真4 大劇場

前2世紀に建設され、アウグストゥス時代に改築された。入口の上の特別席は女神官や興行施主のためのものである。下にオルケストラ周囲の幅広い座席は都市の富裕者用のもので、全部で5千人の収容が可能であった。



写真5 ノチェラ門郊外の墓地、プブリウス＝フラウィウス＝フィロクセノスの墓
ノチェラ門からスタビア門に並行して約94基の墓が並んでいる。この墓は被解放奴隷プブリウス＝フラウィウス＝フィロクセノスとその一族のもので共和政期末に属する。各アーチ状の壁龕には死者の胸像が安置されていた。

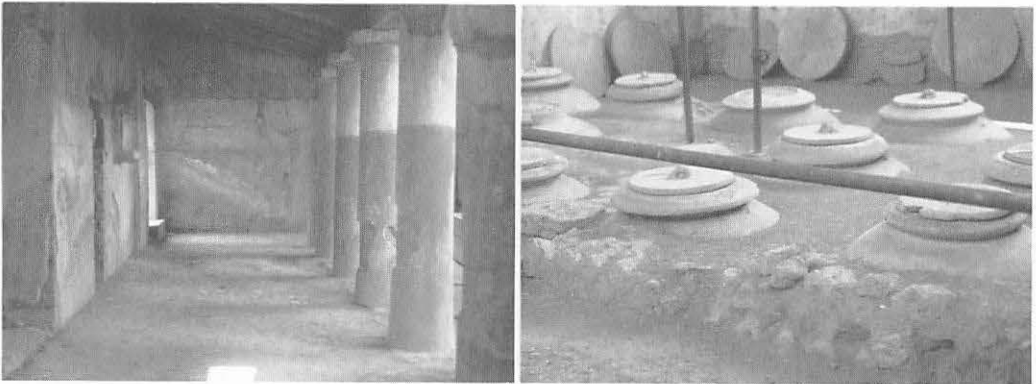
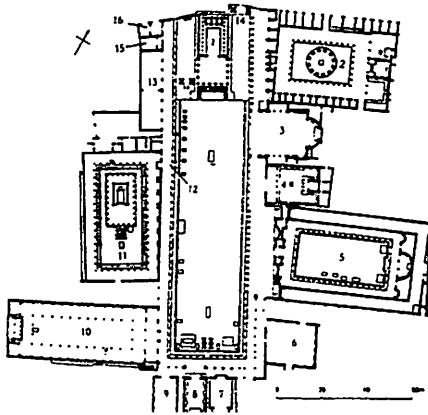


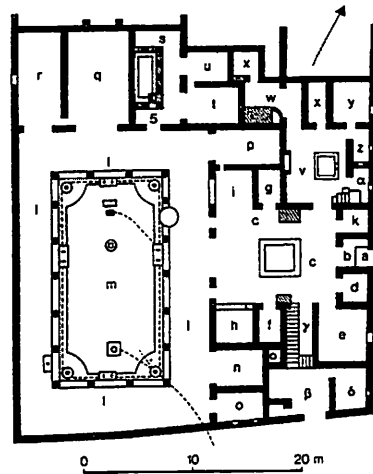
写真6 ウィラ・レジーナ、農業屋敷（ウィラ）の一つ
1978年から発掘が行われ、1980年に完了した。小規模な農業ウィラであるが、今まで発掘された農業ウィラはほとんどすべて埋めもどされたため、現在では最も保存のよいものである。右図は玄関から屋敷内に通じる廊下で、発掘当時ここに荷車が発見された。左図は葡萄酒の発酵室で、18個の壺がうめ込まれている。

ポンペイ発掘

- 7 Plan of the forum and adjoining buildings (1. Temple of Jupiter, 2. Market (macellum), 3. Library (Sanctuary of the City Lares), 4. Temple of Vespasian, 5. Eumachia Building, 6. Voting hall (comitium), 7-9. Municipal Buildings, 10. Basilica, 11. Temple of Apollo, 12. Control of weights and measures, 13. Market Building, 14. Commemorative arches, 15. Public latrines, 16. City treasury).
 8 Balloon photograph. Forum and adjoining buildings.

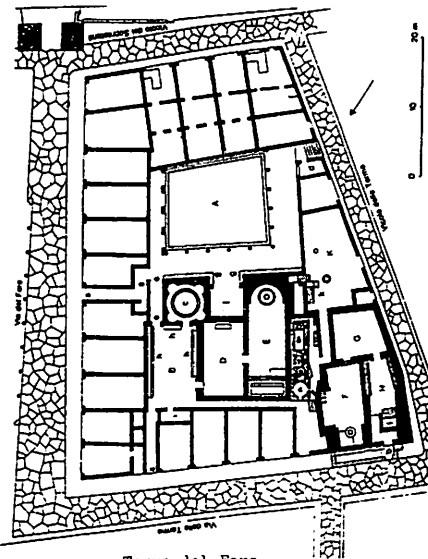


(A) 広場

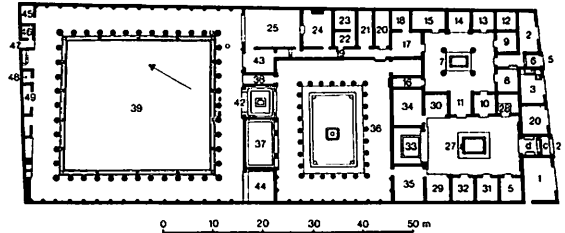


Pompeii VI 15, 1. Casa dei Vettii, pianta.

(C) ヴェッティの家

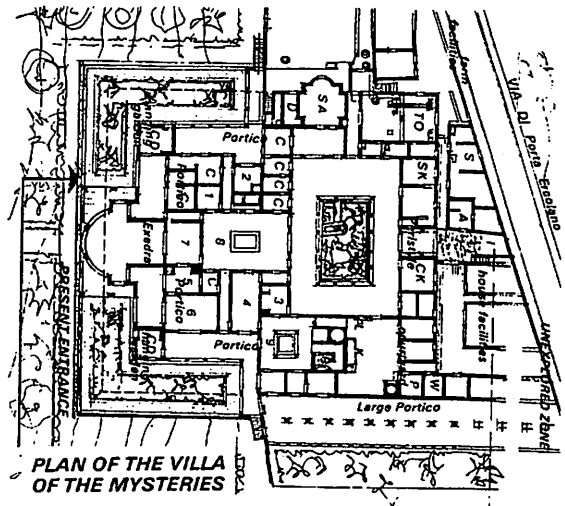


(B) 公共浴場

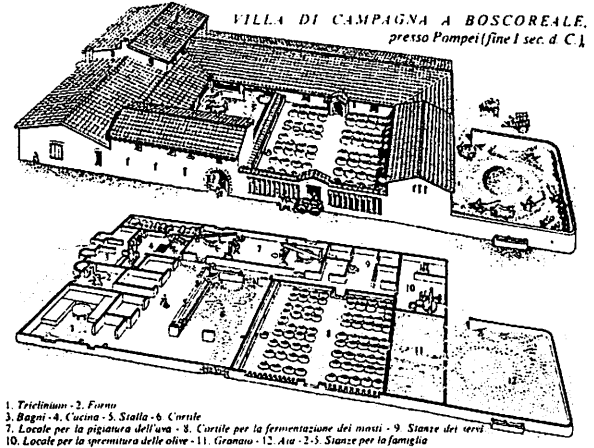
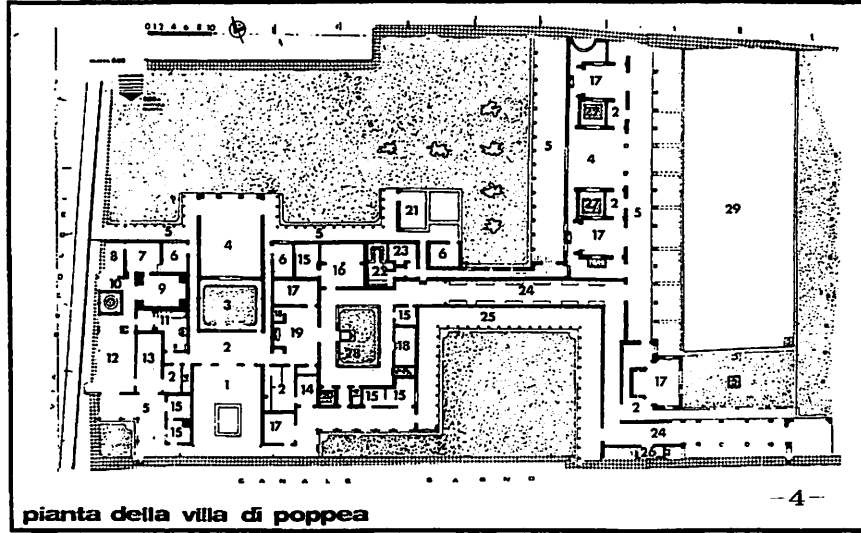


Pompeii VI 12, 2. Casa del Fauno, pianta.

(D) ファウヌスの家

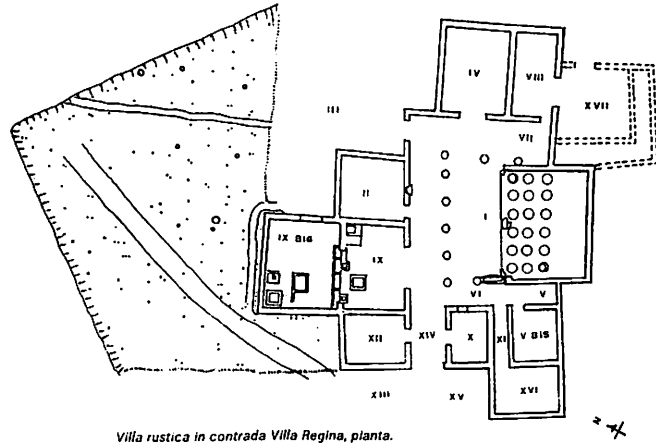


(E) 秘儀荘

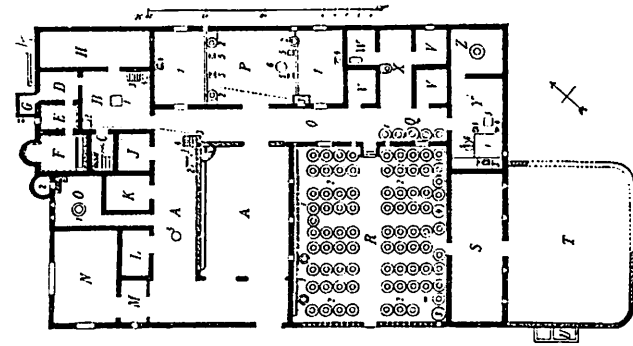


Villa di L. Cecilio Giocondo, ricostruzione e pianta.

[G-1] ルキウス・カエキリウス・ユークンドゥスの農業屋敷



[H] ウィラ・レジーナの農業屋敷



[G-2] ルキウス・カエキリウス・ユークンドゥスの農業屋敷

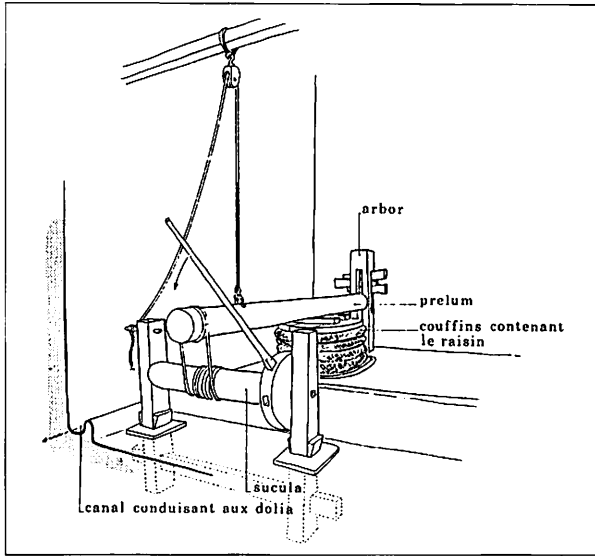


図1 葡萄酒搾汁器

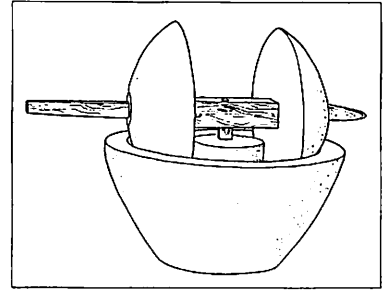


図2 オリーブ碎搾器

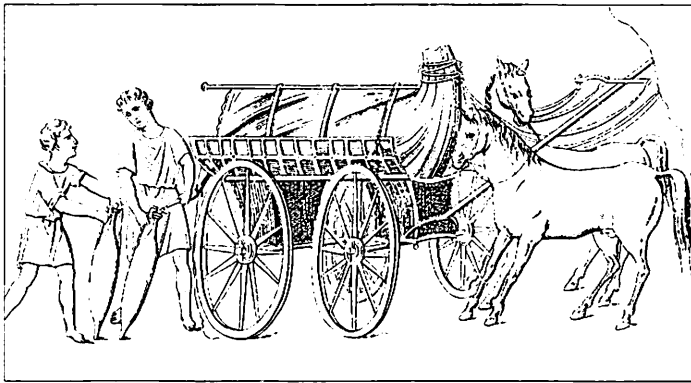


図3 葡萄酒運搬車

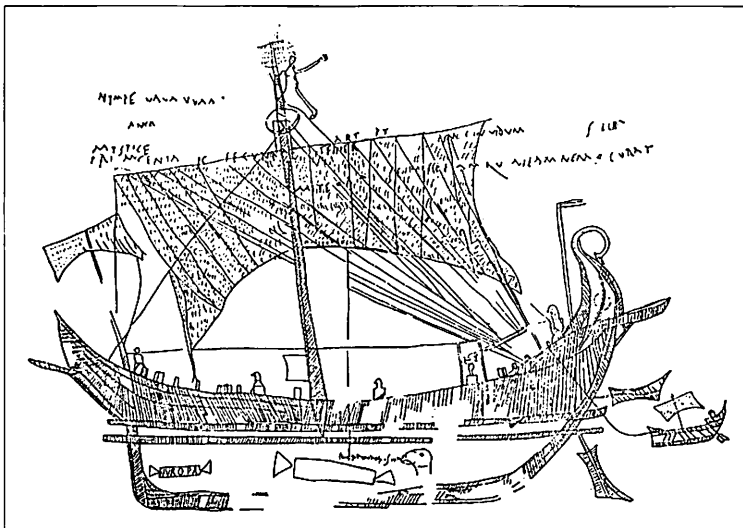


図4 葡萄酒等の輸送船

第七回 一九九五年二月一七日

森林と水

武居有恒（たけいありつね）



生年月日 昭和二年三月六日

出身地 京都市

学歴 京都大学農学部・農林工学科卒業

職歴 京都大学大学院特別研究生修了

京都大学教授

日本学術会議会員

鳥取大学教授（併任）

砂防学会会長

国土庁特殊土地帯対策審議会委員

建設省河川審議会専門委員

現職 京都大学名誉教授

理水化学株式会社代表取締役社長

京都府森林審議会委員

資格・農学博士

褒賞等 荣誉大銀章（オーストリア共和国）

功績賞（オーストリア洪水御禦学会）

赤木賞（赤木正雄顕彰会）

主な著書 「地すべり・崩壊・土石流」——予測と対策——
（鹿島出版）

「砂防学」（山海堂）

「砂防工学」（文永堂）

活躍分野 環境、治水工学

近年森林の保全に対する関心が高まってきている。確かに森林の環境保全機能は高く評価されるべきものではあるが、余りに過大な期待を抱くことは、かえって地球環境と人間生活のバランスを損ない、また森林の取り扱いに対しても誤りを冒すおそれがある。森林のさまざまな環境保全機能は、森林が水環境に及ぼしている影響に関連するものが非常に重要な部分をしめ、また水そのものは人間生活にとって極めて重要な意味を持っている。そこで、森林と水の問題を中心にして森林にかかわる諸問題を考えてみる。

一 日本の森林資源と林業

日本は国土面積の約六七%（世界平均は約三〇%）を森林によって占められている。しかし国土面積が小さく人口が多いため、人口一人当たりによれば〇・二二ha（全世界平均は〇・七六ha）に過ぎないといえ先進国中でも決して小さい値ではなく、一応は森林国といえることができる。ところが木材需給関係で見ると、年間約一・一億³m³の木材を消費しながら、自給率は二五%に過ぎず、毎年八千万³m³以上の木材を外国から輸入している。森林の環境保全機能が

如何に重要であるとはいえ、国内の森林は手を付けずに外材に頼り地球環境を荒らすことに無関心であってはならない。そこで日本の林業の現状を見てみると、林家の年間収入は全産業平均では昭和四五年以降約四・一倍に増加しているのに対し、ほとんど増加せず近年ではむしろ減少傾向にある。林業就労者数は約四分の一に減少し、さらにその内六〇歳以上が約六八%になった。外国にくらべると地形急峻なため、造林・管理・伐出に経費がかさみ、労働が激しいうえに危険がともなうにもかかわらず、輸入材の価格が殆ど変わらぬため、その結果収穫される内地材の価格は、この間に約六〇〜七〇%に下落している。かくて林業の投資利回り相等率は一%を切るに至っている。このような林業の将来性に対する悲観的見通しと、森林が自然保護に果たす役割に対する期待のために、二酸化炭素収支への影響のような環境保全機能が強調されがちであるが、森林は年間約三三〇兆⁴と推算される太陽光線のクリーンなエネルギーを使って、約七〇〇億トンという莫大な資源を恒続的に生産していることを再認識し、その生産性を高めることも極めて重要である。

二 森林と水

林地に降った雨はまず樹冠によって遮断貯留されるが、その量は一〜九mmと少ない。遮断された水は降雨中にも一日平均3mm程度蒸発している。樹冠の間を通過した雨滴・樹冠からの滴下水滴及び樹幹を伝って流下する水が林床に達するが、その量は林相・季節によっても異なり、普通の森林では降雨量の七〇〜八五%である。森林土壌は透水性が極めて高く、一時間一〇〇mmを超すような豪雨でも地表流は起こらない。また多孔質なのである程度は水分を貯留するが、比較的急速に流出してしまうので、洪水ピークの低下には有効であつても、長期的な貯留効果はそれほど期待できない。一方、森林は葉量が多く蒸散面積が大きく、高さが高く表面が不揃いなので風によって水蒸気が拡散しやすく、また根の広がりが多いので水分を集めやすい等の特性を持つため、他の地表条件に比べ林地の蒸発散量は大きい。世界各地で多くの観測結果があるが、森林を伐採すると年流水量は増加し、貧弱な植生地に植栽すると年流水量が減少するという結果に例外はない。森林の増雨作用

についても期待されているが、過去の観測結果では森林によって増加したと証明できるものは全く無い。しかし増加させないという根拠もないので、この結論は当分保留されている。

山地が森林を失うと急速に表面侵食が進行し、溪流に流出した土砂によって水災害・土砂災害が頻発するようになる。また森林を伐採すると数年後から十数年後まで表層崩壊が発生しやすくなるが、根系の発達にともない山腹の安定性は次第に増大する。しかし滑り面の深い大崩壊に対してはその効果はあまり期待できない。

森林の影響で最も重要なものは、短時間の強雨を一時的に森林土壌のなかに貯留し洪水流出のピークを低下させる機能、及び土砂災害を防止する機能であつて、年間の流出量をかなり平準化させることはあつても渇水量を増加させることは期待できない。

温泉とは

桂 京 造 (かつら きょうぞう)



生年月日 昭和二年九月七日

出身地 京都市

学 歴 京都大学理学部地質学鉱物学科卒業

職 歴 京都大学教養部講師(非常勤)

現 職 京都女子大学教授

現 職 桂温泉研究所所長

資 格・
褒 賞 等 理学博士

主な著書

「地球と宇宙の科学」共著(三和書房)

「物理地質学その進展」共著(法政出版)

「芦原温泉における温泉水に伴うガス中の

ラドン濃度分布」(温泉科学)

「近畿地方における放射能泉とそのラドン源

について(その一―三)」(温泉科学)

「丹後半島周辺の温泉」(温泉科学)

「京都府下で発見された酸性泉の性状と

その成因について」(温泉科学)

「深井戸の温度勾配とその地殻熱流量」

(日本地熱学会誌)

活躍分野 温泉科学

日本人程温泉好きな国民は居ないと言われている。筆者は以下どこそこの温泉が風呂やサービスが云々というソフト面をさておき、温泉についてのハード面について述べる。ただ筆者は仕事柄温泉へ行く機会も多いが、がっかりすることがよくある。というのは浴槽の中央や端に設けられた滝や獅子の口から滔々とお湯が注ぎ込まれているのに、浴槽の縁から一向にお湯が溢れ出ていないことが多い。即ちお湯を循環して居るのである。ホテルや旅館の大型化に伴い湯量が多く要求されるが肝腎の採湯量が追いつかず勢い循環せざるを得なくなる訳だ。無駄な贅沢の様だが浴槽からお湯が溢れ出てこそ家庭や銭湯で味わえない本当にゆったりした温泉気分になれるのではないだろうか。案内された浴場で循環現象を見ると入浴する意欲が無くなってしまふ。閑話休題

温泉の定義

温泉とは物理的・化学的に普通の水とは性質の異なる天然の特殊な水が地中から地表に出てくる現象を言い、我々は温度や溶解成分（色・匂い・味など）から判別することがで

きる。法的には日本温泉法が定める、湧出口における温度二五℃以上又は法定成分を一定以上含有するものを温泉と言ひ、成分が特に濃い場合医療効果が著しいとして療養泉と規定している（次表参照）。外国にも勿論温泉が存在するが規格はまちまちで、温度ではヨーロッパ二〇℃以上、アメリカ七〇°F（二一・一℃）以上となっている。

温泉の概念の変化

温泉の内一番簡単かつ明瞭なのは自然状態での自噴である。しかし多くの泉源ではボーリングが行われて居る。掘削も以前はあまり深くなかったが、浅い泉源は余程の山奥でないかぎり開発し尽くされたと言つてよいだろう。一方ボーリング技術の進歩と相俟つて近年は一〇〇〇m級の掘削が通常となり、従来は温泉が無いとされていた地域でも温泉が開発されている。丹後半島周辺地域の新温泉群はこの適例である他後述する深層地下水による温泉が数多く開発されている。

温泉とは

日本温泉法による温泉の定義

1	温度（温泉源から採取されるとき温度とする。）	摂氏25度以上
2	物質（下記に掲げるもののうち、いずれかひとつ）	
	物質名	含有量（1 kg 中）
	溶存物質（ガス性のものを除く）	総量 1,000 mg以上
	遊離二酸化炭素 (CO ₂)	250
	リチウムイオン (Li ⁺)	1
	ストロンチウムイオン (Sr ²⁺)	10
	バリウムイオン (Ba ²⁺)	5
	フェロ又はフェリイオン (Fe ²⁺ , Fe ³⁺)	10
	第1マンガンイオン (Mn ²⁺)	10
	水素イオン (H ⁺)	1
	臭素イオン (Br ⁻)	5
	沃素イオン (I ⁻)	1
	ふっ素イオン (F ⁻)	2
	ヒドロヒ酸イオン (HASO ₄ ⁻)	1.3
	メタ亜ヒ酸 (HASO ₂)	1
	総硫黄 (S) [HS ⁻ +S ₂ O ₃ ²⁻ +H ₂ S に対応するもの]	1
	メタほう酸 (HBO ₂)	5
	メタけい酸 (H ₂ SiO ₃)	50
	重炭酸そうだ (NaHCO ₃)	340
	ラドン (Rn)	20×10 ⁻¹⁰ キュリー単位以上
	ラジウム塩 (Ra として)	1 億分の 1 mg以上

療養泉の定義

1	温度（泉源から採取されるとき温度）	摂氏25度以上
2	物質（下記に掲げるもののうち、いずれかひとつ）	
	物質名	含有量（1 kg 中）
	溶存物質（ガス性のものを除く）	総量 1,000 mg以上
	遊離二酸化炭素 (CO ₂)	1,000
	銅イオン (Cu ²⁺)	1
	総鉄イオン (Fe ²⁺ +Fe ³⁺)	20
	アルミニウムイオン (Al ³⁺)	100
	水素イオン (H ⁺)	1
	ヨウ素イオン (I ⁻)	10
	総ヒ素 (As として)	0.7
	総硫黄 (S) [HS ⁻ +S ₂ O ₃ ²⁻ +H ₂ S に対応するもの]	2
	ラドン (Rn)	30×10 ⁻¹⁰ キュリー単位以上

温泉の成因

以前よく言われた岩漿（マグマ）水説は特殊な場合のみに限られ今日では地球表層部を循環する水のうち、地下に浸入したものが何らかの熱源により温められるか或いは成分を獲得して再び地表に現れると考えられて居る。熱源として一番明らかなのは火山だが、この他一〇〇〇℃程度の温度を有するマグマにより形成された貫入岩体も六〇〇〇万年ぐらいより新しいものは今日まで猶余熱を保っており熱源となり得る。特別な熱源が無かつても地温はある深さまで凡そ三℃／一〇〇mの割合で上昇していく。堆積層には地層水として多量の水が存在している。堆積層の厚さが一〇〇〇mもあれば最深部での地層水は三℃×一〇十年平均気温（本州では一四℃前後）の地温と熱的に平衡となり、量も多いので揚湯の過程で冷めることも少なく従って温泉が形成される。これが深層地下水による温泉で三重県長良川河口の長島温泉を嚆矢とし関東平野でも掘削され、ここ数年の間に大阪平野でも四〇本余り成功している。

温泉の探査

基盤岩を掘削して温泉を湧出させるためには温泉水を胚胎する断層が存在しなければならぬ。従って温泉の探査とは断層探査と言い換えることができる。通常は室内での予備作業から始まる。先ず地質図・地形図から断層を読み取り或いは湯・水・泉・香・塩などが付く地名があるか、近隣に温泉が存在するかなどを調べる。特に地名には昔温泉があつた事実が残されている場合が多い。次に現地での地表踏査となるが前述のように断層の発見に主眼がおかれる。他湧水特に動物が傷を癒したと言われる泉とか沈殿物・気泡の存在、消雪箇所などが参考となるがこれらのことは現地に詳しい古老の話を聞くのが効果的である。地表踏査が断層の発見に繋がればよいが断層は地下に潜在することが多い。この場合には物理的手法を用いる地温探査・電気探査・放射能探査などの実施が要求される。近年実用化された電磁波探査の一種であるMT法は地下深部まで（測定条件が良ければ一五〇〇m）の構造解析が可能で深部源泉探査には非常に有効である。以上述べたような色々の調

査結果を総括し、断層の位置・傾斜を勘案して掘削地点及び深度が決定される。

温泉掘削の手続き及び認可

温泉を掘削しようとするときは自然環境保全審議会・温泉部会の議を経て知事の許可を受けなければならない。許可条件として既存の泉源への影響が無いこと、掘削地点の地主であること若しくは地主の掘削についての同意などが必要である。掘削後、厚生省指定機関例えば都道府県の衛生、公害研究所などで分析を受け合格すれば温泉台帳に登録され、温泉としての権利が発生する。さらに利用許可を得て初めて実用に供される。

第九回 一九九五年五月二六日

古代ローマの政治改革

柴田光蔵（しばたみつぞう）



生年月日 昭和十二年一月一日

出身地 京都府

学歴 京都大学法学部卒業

職歴 京都大学教授

現職 京都大学法学部教授

資格・
学位 法学博士

褒賞等

主な著書 「ローマ裁判制度研究」（世界思想社）

「イタリアの大学問題」（世界思想社）

「ローマ法の基礎知識」（有斐閣）

「法学ラテン語綱要」（玄文社）

「ローマ法ラテン語用語辞典」（玄文社）

「ローマ法概説」（玄文社）

「法のタテマエとホンネ

——日本法文化の実相をさぐる——」（有斐閣）

「法律ラテン語辞典」（日本評論社）

「法律ラテン語格言辞典」（玄文社）

「法格言ア・ラ・カルト」（日本評論社）

「ことわざの知恵・法の知恵」（講談社）

「ローマ法フォーラム（I~VII）」（玄文社）

「古代ローマ物語PART I・II」

（日本評論社）

「ローマ法格言を読み解く(1)(2）」（玄文社）

ローマ法・比較法文化論

活躍分野

とき……紀元二X世紀の、とある日

ところ……歴史都市（キールウィタース・ヒストリカ）・ローマ
ひと……①あるアテーナイ人（紀元前五世紀より飛来）

②あるローマ人（紀元前三世紀より飛来）

③ある日本人（紀元二〇世紀末より飛来）

④司会役の、ある、ヨーロッパ統合国家のリー

ダー（二X世紀人）

⑤タイム・マシンの乗り心地はいかがでしたか。歴史をそれぞれ背負った三人の方々に、短時間のことで失礼ですが、お話を伺いたいと思います。

さて、人類年代紀の上で「政治」という人間の営為がそれなりの形をとるようになってから、もう四〇〇〇年は優に経過しているというのに、ベストな政治はもちろん、ベターな政治さえもこの地上にはなかなか実現しません。まさに「あちら立てればこちら立たず」の閉塞状況なのです。そこで、政治が過去においてどのように改革されてきたのかについて、三人の歴史の証人の方にお話して頂き、私たちの今後の運営に役立てたいと存じます。

①私の住んでいるアテーナイは、政治改革の極致に達して

いると確信しています。なにしろ、二〇〇年以上も、民主的な政治を目指して改革を重ね、ようやくここまでたどりついたのですから。ためしに、ごく平凡な私個人の政治的な活動を見て頂ければ、私たちの政治システムの良さはお判り頂けるでしょう。私は、一昨年、自身の属する部族から抽選によって選出される計五〇人の評議員の一人となりましたが、私たち五〇人の評議員団は、全体で一〇ある評議員団の一つとして、アテーナイ政治の最前線で、輪番制により四月の政務全般を担当しました。私は、たまたま民会の開催される当日に議長の間がまわってきた関係で、六〇〇〇人出席の民会を指揮させていただきました。毎年四〇回以上もある民会で修正動議を出した経験をいくつももっている私でも、これには緊張しましたよ。また、昨年には自ら希望して、抽選の結果、審判人の要職につき、民衆法廷で民・刑事の裁判の判決をいくつも下す経験をもりました。そして、今年も、役人に抽選で選ばれ、昔から最高官とされていた、ある役職についています。一年の任期満了後、私の執務ぶりを法廷で裁かれたりしないよう、いつも

気をつけています。

⑧私の住んでいるローマは、アテーナイさんに比べると発
展途上国ですけれども、政治改革をそれなりに積み重ねて
きました。私たちは民会と元老院と政務官という三大政治
機関をもっていますが、優秀な人材なら、平民の出身であ
っても、民会での政務官選挙を戦いぬいて、退官後、元老
院に所属するようになれば、国家をリードすることができ
ます。このソーシャル・モビリティ（社会移動）の大きさ
こそが、私たちの国家の特徴であり、政治改革の眼目なの
です。⑨さんのような民主政アテーナイの人の眼には、私
たちの属する共和政ローマの体制など、どれもこれも民主
的ではないと映るでしょうが、それぞれに異なった素姓の
人を広い領域に多数かかえているローマでは、私たちの編
みだしたバランスのとれた共和国制というものは、まずは
ベターな選択肢の一つなのです。アテーナイのように、佐
賀県ほどの小さな領土に、何万人もの外国人を枠の外にお
いたまま、市民数を小さく抑えて市民共同体を小さくまと
めていくのなら、そのようなシステムもとれますが、私た
ちはそうはいかないのです。

⑩私の住んでいる日本では、今や政治改革は混沌状況にあ
ります。アテーナイさんは四一五〇〇年、ローマさんは三
一四〇〇年の歴史を誇っていらつしやるようですが、私た
ちの国には一四〇〇年もの歴史があるのですよ。たしかに
この間、政治はいろいろと変化してきましたが、全時代を
通じて天皇制というものが一つの軸として存在していた関
係で、真に抜本的な変革は経験しなかつたと言つてよいで
しょう。アテーナイでもローマでも、王がいれば悪の象
徴・根源として追放されているのは、まったくちがうの
です。ところで、平成という私たちの時代の政治改革は、
政治の中核である政権そのものが不安定なために、腰がす
わっていません。「主権在民」というお題目には誰も異論
はとなえたりしないのですが、それをどのように具体化し
ていくかについて、国論がどうもまとまらないのです。私
たち日本人は、ローマの人と同じように、タテマエとホン
ネを使い分けて、そのときどきを切りぬけていく特技を一
種の民族性としてもっていると思われのですが、政治改
革についても、タテマエでは必要と思つていながら、ホン
ネではそれほど具体的に動こうとしないのです。政治とい

うものがあまり信用されていないせいかもしれません。そのようなわけで、日本の政治改革はあまり自慢できるものではないのですが、それでも、政治の良し悪しにかかわらずこれまで国がそれなりに発展をとげてきたのは不思議と言えば不思議ですね。

①それぞれに興味深いお話でした。アテナイの民主政からは、市民のすべてが平等・対等に政治に参画する具体的なシステムのモデルを学ばせて頂きました。たしかに直接民主政の方式は、現代では夢物語に属しますが、大統領の直接選挙などの制度には生かせそうです。次に、ローマの共和政からは、人々の向上心をうまく生かして、政治的エネルギーを活性化するよい方策を教えてくださいました。ローマという国家があのように長く生きつづけられたのは、開かれた政治、風通しのよい政治を民族の知恵として編みだすことができたからでしょう。最後に二〇世紀の日本からは、何のために政治改革をやるのかという根本的な問題を再考するヒントを得ました。私たちヨーロッパ人は個人中心に動き、きわめて政治的な体質をもっていますが、アジア的な対応も人間の道としてありうることもそれとなく教

えて頂きました。皆様有難うございました。気をつけてお帰り下さい。



表1 アテナイ民主政の盛衰

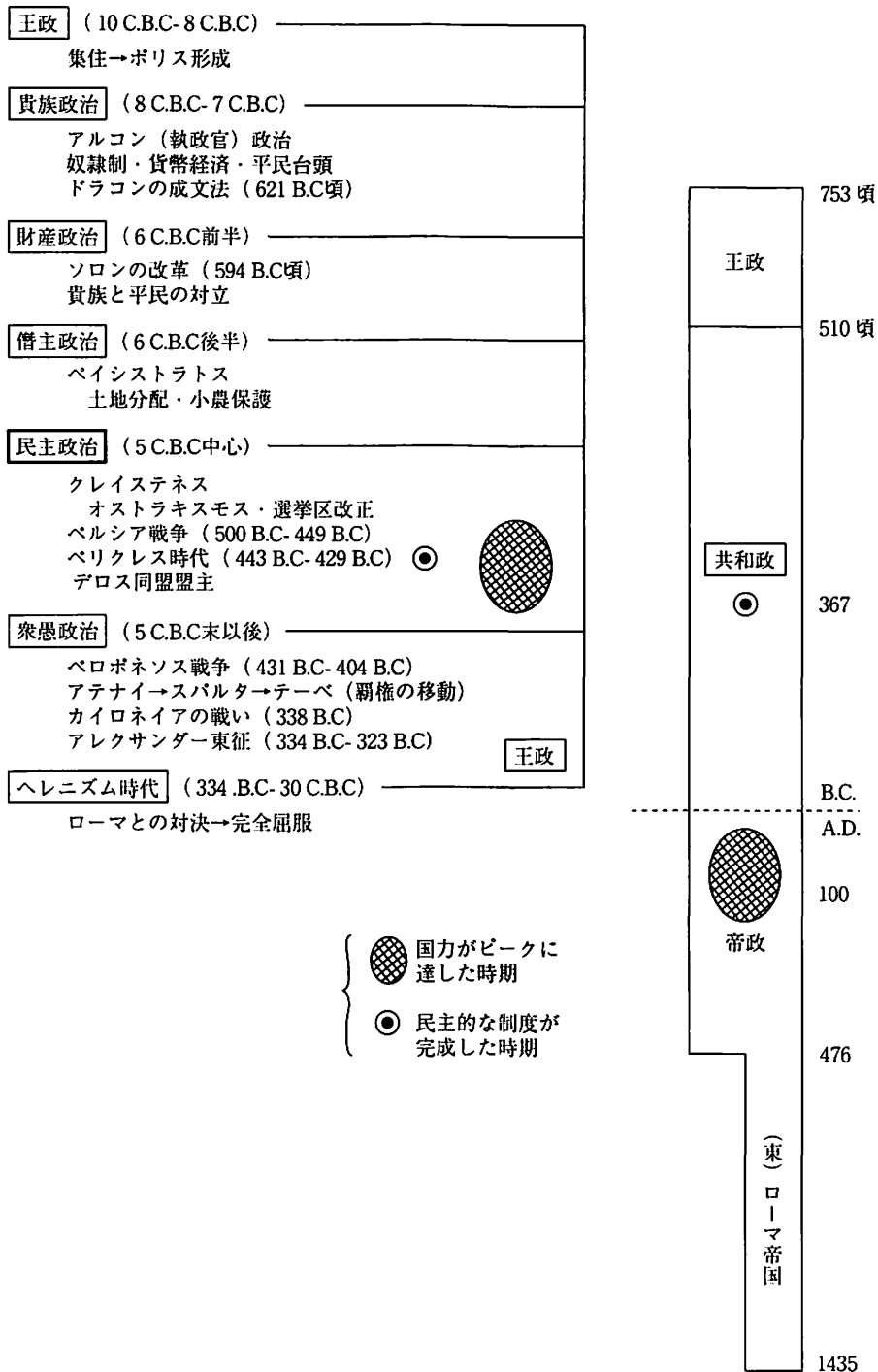
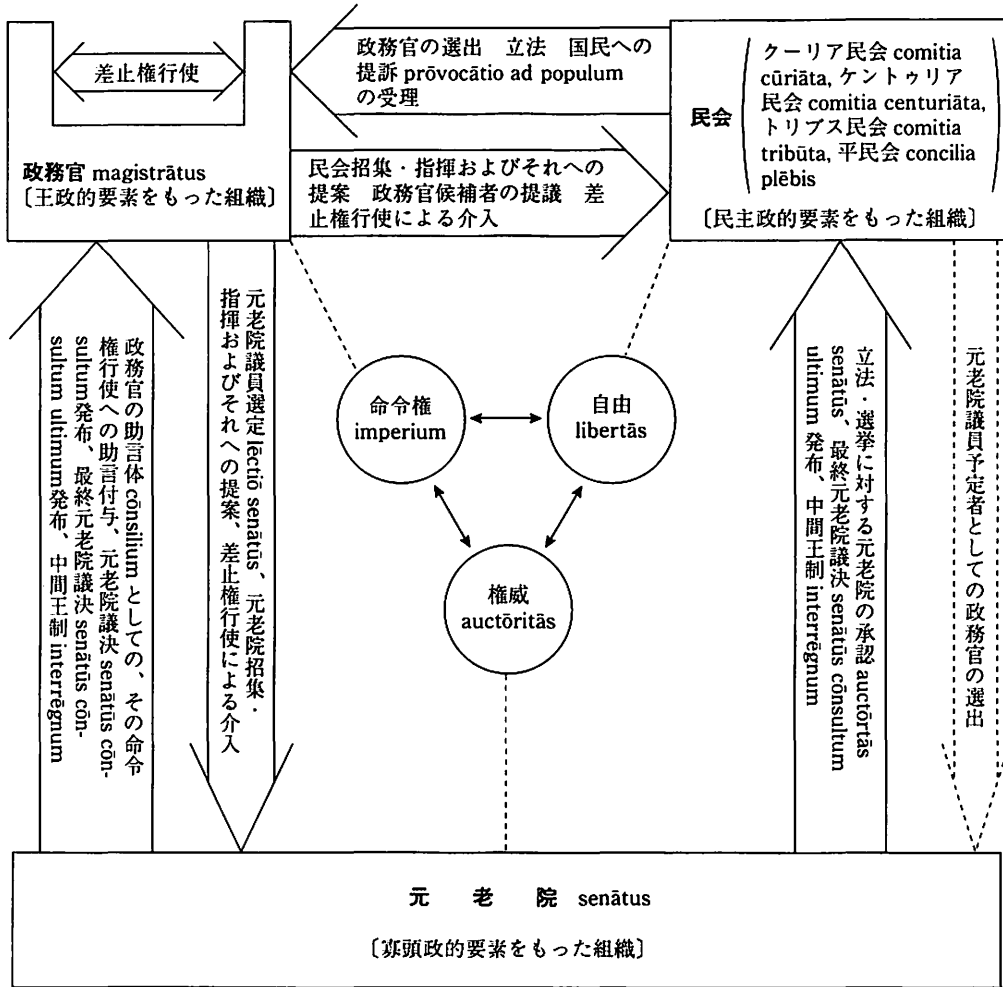


表2 共和政機構模式図

能動的な存在。軍事行動に従事することが少なくないために、ローマ市に不在のことがある。元老院と対立することは得策ではないために、元老院に対して従順である。

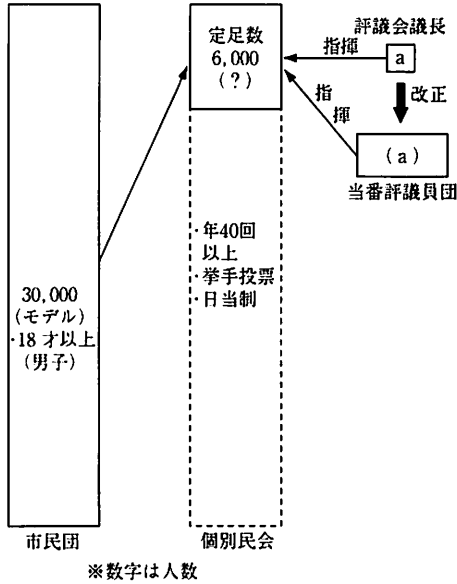
政務官の提案に可否を決定するだけの受動的な存在。形式上は相当重要な地位に位置づけられているが、国民民主権と捉えることはできない。直接民主制をとるために招集は困難。有産層に有利な意思決定方式がとられている。



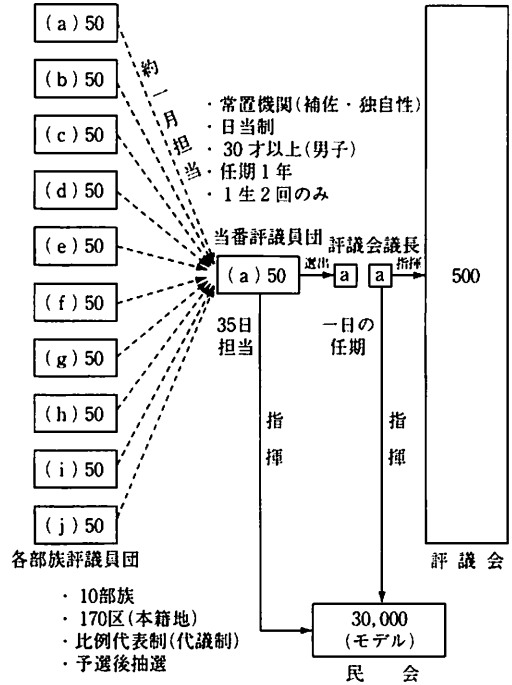
理念的にも、事実上も、国政の中核であるが、その地位は法的にはかならずしも明瞭に規定されていない。定員300名-900名。原則として終身制(政務官とは対照的である)。血統貴族よりも官職貴族(高級政務官職経験者で、平民の上層部も含まれる)が指導力を発揮する。対外政策(宣戦と平和の決定、外交使節の派遣、条約締結)はもっぱらここで決定された。内政においても慣行のつきかさねによって権限を拡大する(とくに財政、属州統治について)。対外的にはローマ国民 *populus Rōmānus* とともに国家を代表する。

表 3 組織

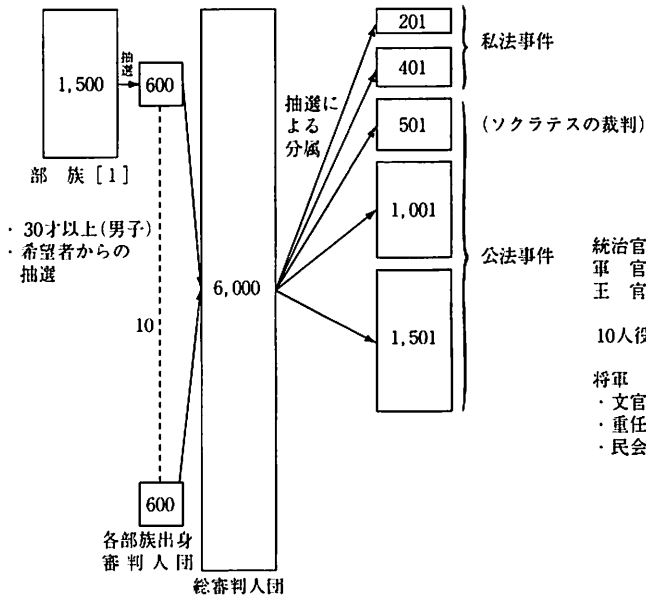
第1図 民会組織



第2図 評議会組織



第3図 民衆裁判所組織



第4図 役人組織

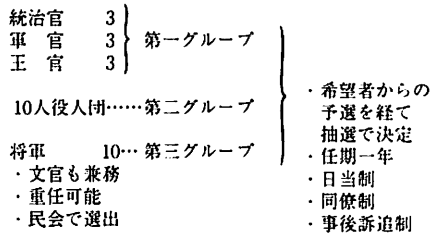


表4 年表

経済	農業 (大土地所有の登場) 農商・工業 奴隷の大規模な利用		(東) 商業中心		(西) 自然経済へ復帰	国際取引の復活																					
政体	王政	共和政	帝政																								
			元首政	専主政																							
法学史上の重要な事象	共和政初期の法学		共和政末期の法学	古典期の法学	古典期後の法学	ユ帝時代の法学																					
	神官の法支配	十二表法	法学のはじまり	ヘレニズムの影響	古典期前期 古典期盛期 古典期後期	ユースティニアヌス法典 卑俗法 ローマ人法 バシリカ ボローニヤ大学の成立 学説彙纂の発見 註釈学派 註釈学派 (後期註釈学派) ローマ法の継受(ドイツ) 復古学派 (人文学派) 自然法学派 歴史法学派 フランス民法典 ドイツ民法典																					
法学の展開																											
年代	700	600	500	400	300	200	100	0	100	200	300	400	500	600	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500	1600	1700	1800	1900
歴史的な建国年	伝説的な建国年		ローマ市の建設	共和政の成立	イタリア半島の統一	ラティウムの征服	職業兵制の導入	ローマ市民権のイタリアへの拡大	軍人皇帝時代	国力のピーク	ユースティニアヌス帝の法典	西ローマ帝国の滅亡	キリスト教国教化	コンスタンティノブルへの遷都	東ローマ帝国の滅亡												

第一回 一九九五年一〇月一三日

日本文化の源流 シルクロード

本田実信（ほんだみのぶ）



生年月日 大正一二年三月二九日

出身地 愛知県岡崎市

学歴 東京大学文学部卒業

ケンブリッジ大学東洋学部大学院修了

(Ph.D.)

職歴 京都大学文学部教授

(西南アジア史学講座担当)

現職 京都大学名誉教授

名古屋商科大学教授（商学科長、図書館長）

資格・
褒賞等 文学博士

主な著書

「イスラム世界の発展」(講談社)

「モンゴル時代史研究」(東京大学出版会)

活躍分野 中央アジア史、イラン史、東西文化交流史

日本人は何処から来たか、日本語にはどのような系統がたどれるのか、そして私たちの日本文化はどのようなにして

形成されてきたのか、これらの問題は私たちの限らない興味をかきたててくれます。ただ日本文化の源流は一つではなく、いくつもあります。そのうち、シルクロードによってもたらされた西方文化が、日本の文化を育み、豊かにしてきたことはよく知られています。シルクロードも一本ではなく、中央アジア経由の陸のシルクロードと、インド洋を越えての海のシルクロードの二つが考えられます。この陸と海のシルクロードでは、人が行き交い、ものが運ばれ、思想が交流し、技術が交換されてきました。日本はシルクロードの東端にあつて、多彩な文物を受け容れ、自らの文化を芳醇にしてきました。ただ文物は西方からの一方流入であつたように見えます。逆方向に日本の文化はシルクロード経由で西方世界に入つていったのでしょうか。文化交流とは相互作用でありますのに、日本文化が西方に伝えられたという証拠がなかなか見出せません。考えてみると、文化交流とは相互認識でもあります。シルクロードという日本文化源流の道を逆にたどり、日本と日本人とはどのよ

うにして西方に伝えられていったかを探ってみたいと思います。

日本は英語圏では「Japan」として知られています。この「Japan」は一六世紀ごろ、ポルトガルやオランダの商人たちが、マレー半島あたりで得た知識に由来すると考えられています。一方、マルコ・ポーロの旅行記に記されているジバング Chingangu, Cipangu も当時のヨーロッパ人の間でよく知られていました。このジバングが日本国であることは確かであります。そして、マルコ・ポーロが日本を訪れなかつたことも確かであります。それではマルコ・ポーロは誰からジバングのことを聞いたのでしょうか。今日は、この問題についてお話してみたいと思います。

私たち日本人のことを始めて記録したのは中国人であります。三国志魏書の倭人伝がそれで、大体西暦三世紀前半の頃と考えられています。この倭人伝の邪馬台国ヤマトのことは、どなたもご存じであります。その後、四〇〇年ばかり経つて、七世紀になりますと、聖徳太子の遣隋使派遣があり、中国との正式な国交樹立が、日中双方の記録に残っています。遣隋使の持参した国書には、「日出ずる処の天子」と

あつて日本という国名はまだ確認されません。隋の次の唐の記録に始めて日本という国名が出てきます。旧唐書という正史には、「中国語に習熟するようになると、倭という名称が雅でないことを知り、国名を改めて、日本と号するようになった。使者の言うところによれば、国は日の出る所に近いので、日本という国名にしたのである」と記されています。従つて、七世紀の中頃には日本という国名が知られるようになり、それは遣唐使の持参した国書に日本国とあつたからでしょう。日本国内でも、最初の史書を日本書紀(七二〇年)と呼ぶようになります。中国では宋の時代になると、日本についての認識が深まり、日本国という国名が完全に定着します。次のモンゴル人王朝の元でも、日本国が正式の呼称となっています。東大寺に保存されている蒙古国書には、「大蒙古国皇帝、書を日本国王に奉る」とあります。この蒙古国書の日付は、至元三年八月となっています。至元三年は西暦一二六六年であり、まだマルコ・ポーロは東方旅行に出発しておりません。

マルコ・ポーロは、一二七〇年にヴェニスを出発し、イラン・中央アジア経由で、一二七四年に中国に入り、元の

世祖クビライの臣下となり、以後一七年間、元朝に滞在し、一二九〇年、福建省の泉州の港を出帆、一二九五年、故郷ヴェニスに帰りました。文永・弘安の役という二度のモンゴル軍の日本襲来(一二七四、一二八一年)は、彼の元朝滞在中のことであり、十分に知り得る立場にありました。彼の旅行記にモンゴル軍のジパングへの侵寇と敗退が詳細に記されているのは当然でしょう。しかし、黄金の国ジパング、さらにジパングの民の風俗・習慣を、彼は如何にして知つたでしょうか。勿論、ジパングは漢語の日本国であります。しかし彼には中国語の知識は乏しく、中国人から聞いたということは考え難いのです。私は、マルコ・ポーロへの情報提供者はイラン系のイスラム商人であつたと考えます。何故なら、モンゴル時代の元朝の国家財政を掌り、外国貿易で独占的な活躍をしていたのはイラン商人であつたからです。そればかりでなく、モンゴル時代のアジアでの国際語は彼等のペルシア語であつたのです。マルコ・ポーロはペルシア語がよく出来、陸海の往復旅行でも、中国国内旅行でも、ペルシア語を使つていたと思われるからであります。しかも、ジパングのことは、彼の帰航出帆港ザ

イトンの条の次に記されています。ザイトン Zaitun とはオリブ樹を意味するアラビア語・ペルシア語であり、イスラム商人の泉州に対する通称であります。この泉州はイラン系イスラム商人が多数滞在し、彼等の租界もあつた港であります。イラン商人は海陸シルクロードで昔から中心的な役割を演じていました。さらに、十四世紀の初頭、マルコ・ポーロの旅行記『世界の記述』が広く読み始められた頃、当時のイランを支配していたイル・ハン国の宮廷で、ラシード・ウツダイーンという大宰相が『集史』と題する世界史を著しました。このペルシア語の世界史に、ジバングの国と人のことが出てきます。ジバングは当時のイラン人にも知られていたわけであります。マルコ・ポーロが、ジバングのことをザイトン（泉州）在住のイラン商人から聞いたということの証拠になりましょう。ジバングという呼称の背後には、シルクロードの長い歴史があるというわけであります。

大災害と京都の都市づくり

三輪 泰司（みわひろし）



生年月日 昭和六年八月二七日

出身地 京都市

学歴 京都大学工学部建築学科卒業

京都大学大学院工学研究科修了

職歴 京都建築事務所取締役

（万国博会場計画委員会出向）

京都工芸繊維大学非常勤講師（造形学科）

奈良市社会教育委員

神戸大学大学院非常勤講師（自然科学研究科）

京都デザイン関連団体協議会議長

京都建築設計監理協会会長

社団法人 京都経済同友会常任幹事

京都商工会議所議員

京都市都市景観賞審査会委員

現職 亀岡市都市計画審議会委員

財団法人 平安建都三〇〇年記念協会評議員・

専門委員

資格・ 一級建築士／技術士

賞格等 工学博士／内閣総理大臣特別賞

（二世紀における日本の国土と国民生活の設計）

「二世紀の設計―国土の構想」共著（勁草書房）

「都市型工業の地域計画に関する研究」

（京都大学学位請求論文）

「現代の生活空間論」共著（勁草書房）

「縁（エン）の都市学―どないしまひよ

京の町」共著（都市文化社）

京都は本当に「平安」の都でしょうか。古い木造住宅が密集し、一四七万市民が住む京都を、日本人の心の故郷と言われているように、安全で美しい都市にしていくことはできるのでしょうか。

京の都は平安の名にかかわらず、創建以来、災難の歴史でした。一四六七年から一〇年続いた応仁の乱で、灰塵に帰したのですが、それ以後もおおよそ一〇〜三〇年毎に、大火・風水害そして戦乱の巷となり、噴火と津波以外の大災害は全て経験しています。

災害経歴と教訓

永く都であったために京都では地震に関する記録が豊富にあります。歴史学・地震学から研究されていますし、京都女子大学の浅見益吉郎教授は、生活衛生学の立場から飢饉・疫病とともに地震災害の史料を調べておられます。理科年表の全国の記録と併せて経年的に見ますと、京都をはじめ近畿内陸での大地震の周期や起こりうる地域が浮かび上がってきます。プイリピン海プレートがユーラシアプレ

ートにぶつかる沈みこみ帯で、相対運動速度が年間4cm。歪みがおおよそ4mに達する百年周期でトラフ部の大地震が起こり、その前後にプレート上でひび割れが起こるようです。ただこの内陸型地震は何処で起こるか、いまのところ予測はできません。

しかし、京都では過去にマグニチュード7級の大地震は度々起こっています。

文治元年（一一八五）の京都大地震はマグニチュード七・四、花折断層が動き白川一帯が被害、慶長元年（一五九六）の伏見大地震はマグニチュード七・五、伏見城天守閣が大破しました。

京都が被った最も新しい大災害は、元治元年（一一八四）七月一九日の禁門の変で、焼失した家数二七、五一七軒。町方家数の五六%が失われました。今、都市の半分以上が壊滅したらどうなるでしょう。大変な事件だったと言えます。しかし、以来一三〇余年、昭和九年の室戸台風からも六〇年、過ぐる大戦でも大きな空襲を受けなかった京都では、市民の大災害の記憶と心構えは薄れていました。そこへ平成七年一月一七日拂曉の阪神淡路大震災は大きな衝撃

でした。

この大震災の特徴は、発達した大都市域直下でのマグチニケード七・二の地震によることで、都市住民が人口の七〇%を越えてしまっている現代の日本では、この教訓を徹底して活かさねばならないのです。

災害経過段階と対策活動

国や府県・市町村で防災計画の見直しを進めています。震災後喧しくいわれた「危機管理」ということを、環境保全や都市景観と同じく、都市づくりに組み込むことを訴えたいと思います。

危機管理 Emergency Management は、救助・避難など事後対策に当たる Crisis Management と、事前の被害軽減を図る Risk Management に分けて考えるべきです。従来我が国の防災計画は、被害予測や事後対策が大部分を占めていて、事前対策の方は殆ど書かれていなかったことと、もう一つは、官主導即ち、お役所まかせであることが特徴でした。

その事後対策が、職員も被災して集まれなかったり、ラ

イフラインが切れて水が出なかったり、現実に機能しませんでした。一方、目覚ましいボランティアの活動などは「予測」されていませんでした。

直後の被災調査から復興へと携わってきまして幾つかの「法則」が判ってきました。

第一に、コトが発生してから先ず「経過段階」があります。第二に、各段階での対処や行動には、行政、即ち組織的レベルと個人レベルがあります。第三に、各段階の資金・労力・時間は、後ほどの一〇の二乗位ずつ永く多くなることです。そして第四に大事なことは各経過段階は「サイクル」すべきこと、即ち発生時ゼロ点から①↓②↓③↓④↓発生↓①と戻るべきことです。Crisis Management と Risk Management を繋ぐことにより「事後対策」の効果がるのです。このことは、京大防災研究所の林春男助教授も社会心理学の立場から指摘しています。

地域社会のリスク・マネジメント活動

もう一つ大事なことは、コミュニティの役割です。地域によって初期消火・救助で際立った違いがありました。復

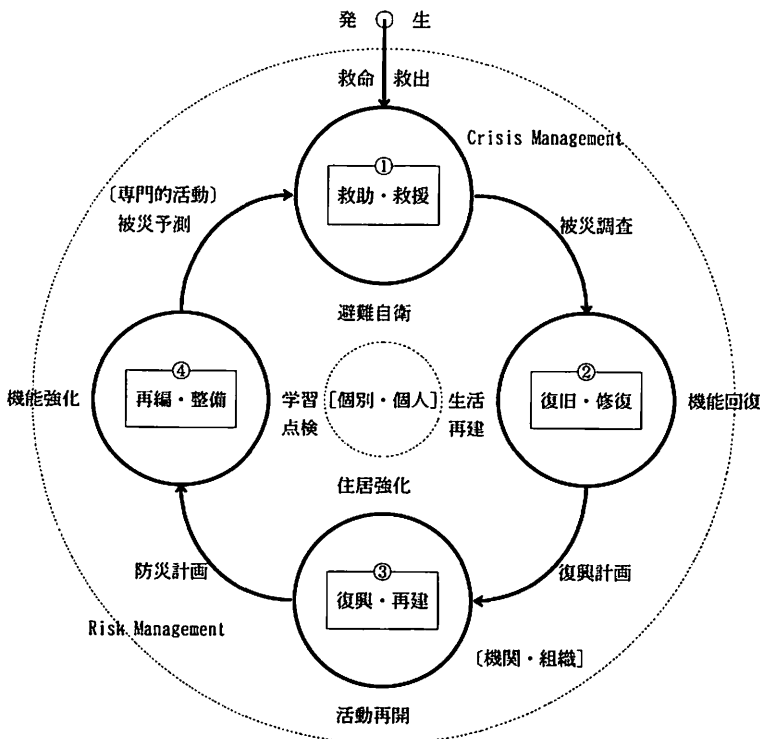
段階・主体と重点活動

段階	個人	地域	行政	専門	時間
①	避難自衛・救命救出	救命救出	救命救援	被災調査	10 d
②	生活再建	機能回復	復旧修復	復興計画	10 ² d
③	住居強化	活動再開	復興再建	防災計画	10 ³ d
④	学習点検	機能強化	再編整備	被災予測	10 ⁴ d

興への立ち上がりでも、商店街やマンションで、日頃からの盛んなコミュニケーションや、まちづくりについての勉強が力になることが判りました。行政と個人の間には「まちづくり協議会」といった「地域社会のため」の活動があり、それに行政が支援し、個人が参加する仕組みです。

表と図で示すと次のようです。

図1 災害と防災のシステム



災害に強い都市づくりの勧め

地震を無くすことはできませんが大きな被害にならないよう、限定化することは出来ます。

木造住宅は壊れて火災を起こさないようにすることが先ず始まりです。

起こっても局地化するには公共施設の配置や設備など、行政はじめ組織的な工夫と努力が必要です。

地域コミュニティにも危機管理の工夫や努力を組み込むと言いましたが、四六時中、危機に備えての訓練をしているわけには行きません。コトが起こる前の永いリスク・マネージメントと言っても、個人の建築物の耐震性能向上のための改修は一気には出来ませんし、それが都市全体に及ぶにはとても永い時間と努力が必要です。そこで、日頃のソフトな方法を役立たせることを提唱します。

京都は、幾度も大災害を経験しながら、その都度前より立派に蘇らせました。

火事を出した町内が揃って愛宕詣をするのは、心を引き締めることが大義名分ですが、厳しさと楽しさを兼ねた夜

行ピクニックで、チーム・ワークの訓練です。その他様々な年中行事にも先人の知恵を学ぶことが出来ます。学区民運動会や町内の清掃奉仕など、多彩な“チームプレー”を元気で楽しく、助け合う心優しい、しかも安全で美しいコミュニティ創りのための“お勧め”活動として提案致します。

第三回 一九九四年二月二十五日

賀茂祭と雅の世界



鳥居清三郎（とりい せいざぶろう）

生年月日 大正十一年一月一日
出身地 京都市
学歴 國學院大學専門部卒業
職歴 官幣大社八坂神社主典
賀茂御祖神社権宮司
財団法人 糺ノ森顕彰会副理事長
神社本庁参与
國學院大學協議員
財団法人 京都古文化保存協会評議員
賀茂御祖神社代表役員宮司
現職 神道関係、祭儀関係等
活躍分野

賀茂祭の起源は、欽明天皇五年（五三六）。

たび重なる風水害によって五穀や農作物が実らず、その上、疫病が全国に蔓延したため、天皇はこれを心配され、賀茂神社に使を遣わして祈願をこめられたのが始めであると伝えられている。

それ以来今日に至るまで代々の天皇は五月一五日使を遣わして斎行されているのである。

賀茂祭は、宮中の殿舎や神社の社殿、牛車、供奉者、祭具など、ことごとく清浄のしるしとして、葵と桂を飾るところから葵祭と呼ばれるようになった。

昔から「祭」といえば葵祭をさしたといわれる程で、王朝時代には最も盛儀であった。

この祭には齋王（内親王）を中心とした女性の行粧ギョウゾウと、勅使（近衛使）を中心とした男子の行粧がある、いづれも優雅なもので男女を問わず、あこがれの的であった。

齋王は賀茂神社に御奉仕されますが、常は紫野にある齋院御所にて天皇御在位中、精進齋斎して籠られるのである。

しかしあまりにも窮屈な生活であるため、女官たちが四季折々に齋王を訪ねられて歌会、貝合せ、又珍らしい話をお

聞かせしたりして、サロンのな楽しい集いがある。このようにして窮屈な中にも「みやび」な一時を過されることもあった。

葵祭の当日は賀茂神社に社参されるため、牛車には葵や桂の外に、桜、紅梅、白梅など四季のいろいろな花で装をこらし、齋王は十二単の正装、お供の女官（命婦メノツメ、女嬪メメシメ、童女ワラメ、内侍ウチノシ、女別当メメシメトウ、騎女カチメ、女等メメシメ）はそれぞれの正装をして、賀茂神社に向かうのである。この優雅な行粧を一目見ようとして庶民は早くから路頭に集まる。中でも身分の高い人は牛車に乗って、先を争って行き来するさまを、源氏物語、枕草子、徒然草に記されている。いかに洛中洛外の人々がみやびな祭にあこがれているかがうかがわれるのである。

齋王の装う十二単は高尚優雅なもので、一枚一枚にも優雅な色目等に配慮されている。

十二単を着装しますには、最初に単ヒトヒラを着ける。この単は紅色である。次に五衣イツツギキスを着ける。

これは字の通り五枚を重ねて着ける。この色合には四季の移りかわりの「梅」「桜」「菊」等の自然を愛でて色を重ねる「重ねの色目」と言う。又「萌黄モエキの匂ニオイ」「紫ムスウロの薄淡ウスユク」

などの言い方をもする。この「匂」とは単色の濃淡、「薄様」は濃淡に白を加えた組合せである。次に打衣を着ける。これは紅染の綾織物を砧で打って柔らかく光沢を持たすものである。次に表着を着ける。これは豪華な織物が使われ地文に立体感を持たせる「二倍織物」で高貴の人が使用する。次に唐衣を着る。この唐衣は十二単の構成要素の中でも極めて重要な意味を持つもので、これには「禁色」の定めがある。禁色とは特定の織り「文様」で使用には勅許が必要である。

その他に懐に入れる砧紙がある。これは紅梅色に染めた「鳥の子二枚」を重ねて表のところに金彩で梅枝が描かれ、中には四十八枚の小菊紙を入れる。

手に持つものに檜扇があり、女官は近世三十九枚、二十才までは皆紅、二十八才までは紅梅とそれに造花と六色の紐がたれている。

この様に永い歴史の中で十二単の姿が生まれ、千年の都と共にみやびの世界が今も尚受けつがれて賞讃のまとなっているのである。

第四回 一九九六年一月一二日

日本人の宗教心



梶田真章（かじたしんしょう）

生年月日 昭和三十一年九月一八日

出身地 京都市

学歴 大阪外国語大学ドイツ語科卒業

職歴 法然院執事

現職 法然院第三二世貫主

主な著書 「京都法然院歳時記」（京都書院）

「法然院」（淡交社）

活躍分野 人間と環境、アーティストの育成・支援

特定の神や仏を熱心に信仰している日本人は少ないのに、今日でも法事や墓参りはよく行なわれています。日本人の宗教心とは何でしょうか。

宗教を大きく二つに分ける場合、通常は、さまざまな民族にまたがって信仰されている世界宗教（キリスト教・イスラム教・仏教など）と、特定の民族だけが信仰している民族宗教（ユダヤ教・神道など）とに分類することが多いようですが、日本人の宗教心について考える場合、自然宗教と創唱宗教という分け方が有効です。自然宗教とは、開祖や明白な教義がなく自然発生的に起こって定着したもので、開祖や明白な教義があるものが創唱宗教と呼ばれます。普通、日本の伝統的宗教としては仏教を考えがちですが、実は日本人の宗教心の根幹をなしてきたのは、自然宗教である先祖教でした。日本人は、特定の仏や神に対する信心よりも、先祖に対するまつりを宗教の中心に据え続けてきたのです。

日本に仏教が伝えられたのは、六世紀の中頃でした。聖徳太子は、外来宗教である仏教を新しい世界観を説くものとして受け入れ、仏・法（教え）・僧（教えを信ずる仲間）の

三宝を敬うことを勧めましたが、他の豪族たちは、先祖をまつる手段として仏教の形式を借り、一般の人々は、恵まれない死に方をしてたたと恐れられた死者の魂を鎮めるのに、仏式で弔うことが威力を示すと考えました。

南無阿弥陀仏と唱えることも、平安時代までは死者の鎮魂慰霊のための呪文として唱えられることがほとんどでしたが、平安時代の末から鎌倉時代の初めにかけて、法然上人とその弟子の親鸞聖人が、本願念仏を説きました。本願念仏とは、一切の生きとし生けるものを自分の国（極楽）に迎えとって成仏させようという、阿弥陀仏が本来持つておられる願い（本願）を信じて唱える念仏のことです。死者を弔うために唱える念仏ではなくて、自分自身が極楽往生するために唱える念仏です。普通、神や仏に祈るのは、こちらに先に願いがあつて神や仏がそれにお応えになると考えますが、それだと十の願いがあつても十は応えて下さありません。本願念仏を唱えるということとは、阿弥陀仏の願いにこちらが応えることです。十人が念仏を唱えれば十人も往生させていただけなのです。

ご承知の通り、鎌倉時代には法然・親鸞以外にも道元・

日蓮などさまざまな仏教者が出られて、自分自身の修行や信心によって自分自身が仏の道を歩むという仏教本来の教えがさまざまな形で説かれました。しかし、室町時代に農作物の生産高が飛躍的に増大して庶民生活が安定してくると家が代々続いてゆくようになり、子供が死んだ親をまつることによって親がご先祖さまになってゆくという先祖教が定着するようになりました。そして特定の寺に家の先祖の弔いを依頼するという菩提寺と檀家の関係が形成され、江戸時代になると徳川氏によって寺檀制度として確立され、今日まで続くことになったのです。

民俗学者の柳田國男は、先祖教の特色を次の四つにまとめています。

- (1) 死者の霊がふるさと近くに留まっているということ。
- (2) この世とあの世の交流が自由であるということ。
- (3) 臨終の際の願いが死後には必ず達成されると考えられたこと。

- (4) 死んでもなお二度、三度と生まれかわって、しかも同じ事業を続けることができると思われたこと。

何れにしても今日まで日本の仏教は、先祖教の儀式を執

り行なう手段として生き延びてきました。法事も、子孫が行ないたいから行なってきたのではなくて、極端に言えば行なわないと死者がご先祖様にならない(成仏しない)から行なわれてきたのです。

自分自身の成仏のために仏を信じたり仏道修行することは、多くの人々にとっては、馴染みのないことでした。先祖教がかつての力を失いつつある現在、創唱宗教が日本人にとって意味を持つかどうか、鎌倉時代以来八百年ぶりに問い直されているのです。

第五回 一九九六年二月九日

世界のコンサートホールを目指して

岩淵龍太郎（いわぶちりゅうたろう）



生年月日 昭和三年一月二一日

出身地 東京都

学歴 東京帝国大学法学部中退

職歴 京都市立芸術大学教授

音楽学部長

社会法人 日本演奏連盟常任理事 等

現職 京都市立芸術大学名誉教授

京都コンサートホール館長

ヴァイオリニスト

活躍分野 音楽（ヴァイオリン）を中心とした分野

音楽（弦楽・弦楽教育）

国際・国内コンサート運営委員及び審査員

昨年十月中旬に待望の「京都コンサートホール」のオーピング・セレモニーが行われ、京都市交響楽団が第一声を挙げた後オーピング・シリーズの開幕コンサートをパリの三日連続公演で開始して華々しい門出を飾った。

京都コンサートホールの建設経過を概観してみよう。京都の活性化をはかる意味もあつて、ほぼ十年以上前に世界文化自由都市宣言と言うものを行い、その趣旨に基づいて京都市民に対して传统文化のみならず現代文化の領域でもきめ細かい施策が多角的に検討された。そして先ず市民劇場を提供しようということになり、然らば如何なる市民劇場が第一に考えなければならぬかと言う議論になつた。

それ迄は昭和三五年に建設された京都会館が、多目的ホールとは言いながら音楽ホールとしても東京文化会館に二年程先んじて時代の最先端を行くホールとして輝ける存在であつたが、その後全国各地に音楽専用ホールがどんどん建つようになり、又音楽専用でなくても機能的に音楽ホールに限り無く近い良いホールが建つに及んで、京都会館の音楽専用ホールとしての性能に批判の声が聞かれるようになって来た。

京都会館は飽くまで第一級の多目的ホールとして運用すべきものであつて、クラシック音楽専用ホールがこの際市民劇場として最も京都が必要としているものと言う認識が高まり、又固まつたのである。

先ずホールの音響に就いての私の個人的確信を述べて置きたい。私の五〇数年に亘る音楽生活の体験からして、誠に神の恵みとでも言うほか無いように良く出来てゐると思つてゐる。勿論出来たてのものであるから幾らでも部分的ご批判があつても止むを得ないと思う。然しホールは巨大な楽器であつて総べての楽器がそうであるように一定の期間（三年とも言い、五年とも言うが）良い音で弾き込まなければならぬ。そして本当に音質が良いかどうかは聴者の直感のみで判断されるべきもので、二一世紀の終わりに近づいてゐるこのハイテク時代でも、音響学や音響工学の手に負えるものではない。ストラディヴァリウスその他の弦楽器、管楽器類は勿論のこと、工学的生産物と考えられがちなピアノと言へども最終処理は工学的方法ではなくて、各企業の秘密になつてゐる調整師の名人芸に掛かつてゐる。勿論全体の八〇パーセント位までの音響条件整備は音響工

学で可能であり、それ故にこそホールの音響整備は一流の音響工学の専門家に委託されるのが普通になってきているし、そのことになんら不都合があるはずはないが、それで完結されると考えることは出来ない。この様な事を総合的に考えると、京都コンサートホールの音響は世界の第一級のうちの one of the best と自信をもって言い得る。

このホールの建設によって阪神地区に流れた京都の音楽ファンは大きくその流れを変えるであろうし、又そのように運用しなければならぬと考えている。又一流の演奏家が京都を素通りして行ってしまうと言う現象も急速に回復されて行くことであろう。

それには高い文化意識に基づいたコンセプトによる自主事業によってホールのステイタスを世界最高のものに維持し、同時に意欲的な市民を始めとする音楽家達が競つてこのホールで演奏するような魅力の開拓が是非必要である。

様々な困難はあるにせよ、私はこのホールが世界一流の「京都コンサートホール」として光り輝いて来るのは五年と見ている。何卒市民の皆様の時間のスパンを掛けての絶大なるご支援をお願い申し上げる次第です。

中年からの健康



吉田 修 (よしだ おさむ)

生年月日 昭和一〇年三月一日

学 歴 京都大学医学部医学科卒業

職 歴 京都大学医学部教授(泌尿器科学講座)

米国ウイスコンシン大学医学部臨床腫瘍学教

室客員研究員/第二六回日本泌尿器学会中部

総会会長/第三回日本エンドウロロジー・E

SWL学会総会会長/ The 7th World Con-

gress on Endourology and ESWL 会長/第

一二回日本医学会総会展示委員長/第二回泌

尿器科腹腔鏡下手術研究会会長/第八一回日

本泌尿器科学会会長/日米癌協力研究事業委

員会委員/日本学術会議会員

現 職 京都大学医学部附属病院院長/日本泌尿器科

学会理事長/日本癌治療学会副会長

日本腎臓学会・日本癌学会・日本不妊学会・

日本エンドロロジー学会評議員

日本エンドウロロジー・ESWL学会理事

Fellow American College of Surgeon (FACS)

American Urological Association :

Corresponding Member

Society for Minimally Invasive Therapy :

Charter Member

The Urological Association of Asia (UAA):

Secretary General Congress Chairman

資 格・ 医学博士/京都新聞文化賞

褒 賞 等 高松宮妃癌研究基金学術賞

主 な 著 書 「ベッドサイド泌尿器科学」他多数

活 躍 分 野 泌尿器科学

中年という言葉は医学用語ではないが、まあ四〇歳くらいからとし、その年代からの健康について述べたい。

全ての人間は健康で長生きしたいと願っている。すなわち天寿を全うしたい、長寿でありたいと願っている。そう願っていない人がいるとすれば、その人は精神的に健康とはいえない。では天寿を全うするにはどうしたらよいか。それには三つの要素が考えられる。まず先天的要素、すなわち長寿に関連する遺伝子である。現在、多くの研究者が長寿の遺伝子を探しているが、まだ人では見つからない。しかし長寿の家系があることは事実である。次に後天的要素。つまり、養生である。如何に日々健康に気をつけるかである。そして三番目が運である。運命とは違う。そしてこの運の中で一番重要なのは人との出会いである。配偶者との出会い、友人との出会い、医者との出会いなどである。この三つの要素は独立しながら相互に深く関連している。

先天的要素と運は如何ともしがたいが、養生すること、健康に気をつけることはできる。それは老化の防止と成人病の予防とである。老化は生きとし生けるものすべてに見られる現象で、避けることはできないが、遅延させること、

ないしは「美しく年をとること、上手に年をとること」はできる。それには「栄養」と「運動」が重要である。栄養は、まず蛋白質を充分摂ること。それも動物性と植物性を半々にすること。第二に食塩は出来るだけ少なくすること。一日一〇グラム以下。第三にカルシウムを充分摂ること。とくに女性はこれが必要。もつとも手っ取り早い方法は牛乳を飲むことで男性は一日一〇〇ml、女性は二〇〇mlを目安にすればよい。第四に緑黄色野菜を充分摂ること。第五に食べ物の種類を多く摂ること。

そして運動。これは毎日すること。最も手っ取り早いのは「ウォーキング」。一〇〇から自分の年齢を引いた数、例えば八〇歳なら二〇分、速歩で途中休み無く、毎日歩く。ただし疲労感が残るようなら、一日おきに歩くのがよい。ゴルフもウォーキングと見なしてよいが、途中で何度も休むので、連続速歩ほど効果がない。ゴルフでウエイト・コントロールができない所以である。

成人病は習慣病ともいわれるが、老化の防止として述べたことは成人病の予防にも繋がっている。がんの予防は何はさておき、まず禁煙である。煙草は本当によくない。や

めるに越したことはない。高齢者でも煙草はやめたほうがよい。一つだけ注意することがある。タバコをやめると肥る。それが、煙草をまた始める動機になることがあるが、欧米では禁煙クリニックがあり、栄養士がついていて肥満対策を同時にする。健康の面からだけいうと、煙草ほど有害無益なものはない。また食塩は胃がんの発生を促進する。高血圧にも非常に悪い。緑黄色野菜は、 β -カロテインに富み、繊維質も多い。緑茶もよい。最近緑茶の中にあるエピガロカテキンガレート(EGCG)成分は発癌のプロモーションを抑制することが証明された。次に酒。これは適量ならよい。「一杯人、酒を飲み、二杯酒、酒を飲み、三杯酒、人を飲む」。一杯で止めておくべきである。量を超すと成人病全てを促進する。

健康について一九四六年世界保健機構(WHO)が作成した憲章の前文に、「健康とは、肉体的・精神的並びに社会的に完全に良好な状態であつて、単に疾病や虚弱でないというだけではない」とあり、これは人間の基本的権利であると述べられている。身体的健康は気をつけて保つようにならう。これが精神的健康、社会的健康の基礎になるか

らである。精神的健康も気をつけていないと知らず知らずに損なっていることがある。社会的健康は常に気をつけ、また努力しないと得られない。

天寿を全うするとは、身体的にも精神的にも社会的にも完全に良好な状態で長生きをすることである。そして、周囲の人に迷惑を掛けることなく忽然として死を迎えることが出来れば理想であろう。先日草柳大蔵さんから、「働きで 忽とゆきたし 錢葵(ぜにあおい)」(古賀まり子)という句を教えて貰ったが、これが出来た人には《人生の達人》の称号を与えてもよい。

編集後記

一九九四～一九九五年度副会長
脇田周輔

本書は一九九四～一九九五年度 九回、一九九五～一九九六年度 六回 計一五回に亘って開催されました当京都東ロータリークラブ主催の公開文化塾の講義を取りまとめ、発刊したものであります。

一九九四～一九九五年度村田会長のテーマ「Creation」(日々を新たに)に依り、対外活動として計画された此の催しは当クラブはじめての企画であり、会長より担当として指名を受けたその当初は何から手をつけてよいか戸惑うばかりでしたが、満田久輝先生はじめ、お願いしました会員の講師先生方の誠に好意溢れる前向きのご協力を得、極めて順調に推移し、当クラブ内外共に所期以上の成果を上げることが出来ました。一九九四～一九九五年度二六五〇地区ガバナーより当クラブに対し「意義ある業績賞」を頂戴する事が出来たことは講師の先生方は云うまでもなくお手伝い頂いた会員各位共々御同慶の至りと存じます。

一九九五～一九九六年度三輪会長も石田社会奉仕委員長を担当に指名され、後援団体として財団法人京都市女性協会に加えて京都市地域女性連合会、京都市教育委員会の参加を得て、本事業を継続され、計一五回の講座となった訳であります。文化、教養、歴史、経済、環境と広い範囲に及び、内容の濃いしかも知的な楽しさに満ちたこの一五回の講座について、聴講にこられた会員、会員ご家族、会員外の方々後援団体の皆様より、聴き流しは何とも勿体無いので一冊の書物にまとめてほしいとの希望が大変多くありましたことが今回の出版となりました。

本書の編集出版については、石田善也会員の絶大なるご協力を得ましたことと、河北印刷株式会社のキメ細かいご奉仕に感謝し、あとがきと致します。

公開文化塾 講演集

発行 京都東ロータリークラブ

平成八年十二月二十七日発行